

# 子安増生教授 履歴・業績目録

京都大学大学院教育学研究科

2016年3月

## 目 次

ご挨拶	3
履歴書	5
研究業績一覧	
1. 著 書	8
2. 論 文	14
3. 総 説	20
4. 翻 訳	25
5. 辞典・事典類	26
6. 学会等発表	27
7. 講 演	45
8. 交付研究費	49

## ご挨拶

子安 増生

1988年4月に京都大学教育学部助教授として母校に戻って以来28年の歳月が経ちました。1997年に教授に昇任し、1998年4月の大学院重点化により教育学研究科教授になりました。大学院重点化時の講座再編に伴い、所属は教育方法学専攻教育心理学講座から教育科学専攻教育認知心理学講座に変更になりました。

1994年3月から1995年1月にかけて文部省在外研究員（長期）として英国オックスフォード大学実験心理学部のピーター・ブライアント教授のもとで訪問研究員として9か月あまりを過ごしました。



この在外研究員生活の中で最も重要な出来事の一つは、1994年7月にイングランド北部のシェフィールド大学で開催された「心の理論の理論 (Theories of theories of mind)」という国際シンポジウムに出席したことです。この会議は、哲学と心理学のジョイント・セッションであり、ジョゼフ・パーナー、サイモン・バロン＝コーエン、チャーリー・ルイスなど、錚々たる研究者が集いました。このシンポジウムが転機になって、帰国後に「心の理論」の研究を始めることになり、それが私の研究の大きな柱になっています。

相互に研究訪問や共同研究をする関係を築いてきたのは、チャーリー・ルイス（英国・ランカスター大学）、クレア・ヒューズ（英国・ケンブリッジ大学）、マルタ・ヒル＝ラクルス（スペイン・サラゴサ大学）、エマニュエル・マナロ（ニュージーランド・オークランド大学）などの先生方です。マナロ先生は、長い交流期間を経て、2014年10月から教育学研究科の外国人教授に就任しました。

2007年から5年間、文部科学省のグローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」の拠点リーダーを務めました。グローバルCOEは、「大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援」するもので、博士課程

の大学院生の研究の国際化を推し進める一方、拠点独自の研究として世界 13 カ国 8,122 人を対象に 7 言語（日、英、独、西、葡、中、韓）を用いて「幸福感の国際比較調査」を行いました（成果は『心理学評論』55 巻 75-89 頁に掲載）。

2014 年 4 月から 2 年間は、教育学研究科長・教育学部長の職責を担いました。教授会の会議をタブレット端末利用方式に代えたこと（時間効率向上と紙使用量の削減）、研究科基金を創設したこと、外国人教員 3 名のポストを順次確保してニュージーランド人、アメリカ人、オランダ人の優れた先生方を採用したこと、部局間国際交流としてイギリス（UCL 教育研究所、ランカスター大学）、ドイツ（ベルリン自由大学、ドルトムント工科大学）、デンマーク（コペンハーゲン・ビジネススクール）、中国（北京師範大学、中国教育科学研究院）、韓国（ソウル大学）などの大学・研究機関との交流を着実に進めたことなどをその成果に挙げるができます。

心理学者としての私は、日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会などの国内学会を中心に活動してきました。日本発達心理学会理事長を 2 期 6 年間務めた後、現在は日本心理学諸学会連合理事長の 2 期目（通算 3 年目）の職責を担い、2015 年 9 月には公認心理師法という心理職の国家資格制度を実現することに、微力ながら貢献いたしました。揺籃期にある公認心理師の資格制度を見守り育てることも、今後の私の重要な課題の一つと考えています。

4 月から私は、神戸市の私立・甲南大学文学部人間科学科の特任教授に就任します。任期は 5 年間です。甲南大学の特任教授職は、学科会議への出席と入学試験の仕事以外には管理運営の業務はなく、研究と教育に専念できる大変恵まれた条件です。今後とも大学生の教育に携わりつつ、日本の大学の発展、大学人の幸福感向上、子どもの発達支援などに関して、私にできることをしていきたいと考えています。

これまでお世話になりましたすべての方々に、ここに心より厚く御礼申し上げますと共に、今後ともどうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、教育認知心理学講座の私の個人ページは、2016 年 3 月 31 日をもって更新を終了しますが、この PDF を含む過去の記録に関わる 2 つの情報を講座ホームページ「メンバー」に「名誉教授」のバナーを置いて保存させていただきます。

(2016 年 3 月 31 日記)

## 履 歴 書

氏 名 子 安 増 生 (こ や す ま す お)

生 年 昭 和 25 年 11 月

本 籍 地 京 都 府

学 歴 ・ 職 歴 等

年 月 日	学 歴
昭和 44 年 4 月 1 日	京都大学教育学部 入学
昭和 48 年 3 月 24 日	京都大学教育学部 卒業
昭和 48 年 4 月 1 日	京都大学大学院教育学研究科修士課程 入学
昭和 50 年 3 月 24 日	京都大学大学院教育学研究科修士課程 修了
昭和 50 年 4 月 1 日	京都大学大学院教育学研究科博士課程 入学
昭和 52 年 7 月 31 日	京都大学大学院教育学研究科博士課程 退学
平成 9 年 3 月 24 日	博士 (教育学) ; 京都大学論教博第 72 号 「心のモジュール説による幼児期の〈心の理解〉の研究」

年 月 日	職 歴
昭和 52 年 8 月 1 日	愛知教育大学助手 教育学部
昭和 57 年 1 月 16 日	愛知教育大学助教授 教育学部
昭和 63 年 4 月 1 日	京都大学助教授 教育学部
平成 9 年 12 月 1 日	京都大学教授 教育学部
平成 10 年 4 月 1 日	京都大学教授 大学院教育学研究科
平成 14 年 4 月 1 日	京都大学評議員 (～平成 16 年 3 月 31 日)
平成 17 年 4 月 1 日	京都大学教育研究評議員 (～平成 25 年 3 月 31 日)
平成 17 年 10 月 1 日	京都大学教育学研究科副研究科長 (～平成 24 年 3 月 31 日)
平成 23 年 4 月 1 日	放送大学大学院文化科学研究科客員教授 (～平成 27 年 3 月 31 日)
平成 26 年 4 月 1 日	京都大学教育学研究科研究科長・学部長 (～平成 28 年 3 月 31 日) 現在に至る

### 在 外 研 究

平成 6 年 3 月 文部省在外研究員 (長期) として連合王国、アメリカ合衆国へ出張  
～7 年 1 月

平成 8 年 3 月 文部省在外研究員 (海外研究開発動向調査) として連合王国へ出張  
～8 年 5 月

### 資 格 等

平成 8 年 12 月 21 日 日本心理学会認定心理士 (第 1683 号)  
平成 21 年 4 月 1 日 臨床発達心理士 (第 2244 号)

### 所 属 学 会

昭和 48 年～ 日本心理学会会員  
昭和 51 年～ 日本教育心理学会会員  
昭和 54 年～ 民主教育協会会員 (平成 17 年に IDE 大学協会に名称変更)  
昭和 59 年～ 発達懇話会会員 (平成元年に日本発達心理学会に発展的解消)  
昭和 58 年～ 日本認知科学会会員  
昭和 63 年～ 関西心理学会会員  
平成元年～ 日本発達心理学会会員  
平成 18 年～ 国際教育学会会員  
平成 19 年～ Jean Piaget Society 会員  
平成 22 年～ SRCD (Society for Research in Child Development) 会員  
平成 24 年～ ISSBD (International Society for the Study of Behavioural Development) 会員

### 学 会 役 員 等

平成 9 年 4 月 Psychologia 編集長 (～平成 15 年 3 月)  
平成 12 年 9 月 日本教育心理学会常任理事 (～平成 15 年 8 月)  
平成 13 年 7 月 日本心理学会理事 (～平成 16 年 6 月)  
平成 17 年 3 月 日本発達心理学会常任理事 (～平成 20 年 3 月)  
平成 17 年 4 月 日本教育心理学会常任理事 (～平成 18 年 9 月)  
平成 18 年 11 月 国際教育学会理事 (～現在に至る)  
平成 19 年 4 月 大学基準協会大学評価委員会副委員長 (～平成 21 年 3 月)  
平成 20 年 4 月 日本発達心理学会理事長 (～平成 26 年 3 月; 平成 25 年 7 月一般社団法人化に伴い代表理事に役職名変更)  
平成 20 年 4 月 臨床発達心理士認定運営機構理事長 (～平成 23 年 3 月)  
平成 20 年 4 月 日本心理学諸学会連合理事 (平成 21 年 6 月～同監事、平成 22 年 7 月～同常任理事; ～平成 23 年 6 月)  
平成 20 年 10 月 日本学術会議連携会員 (～平成 26 年 9 月)  
平成 23 年 6 月 第 31 回国際心理学会議 ICP2016 実行委員 (～現在に至る)  
平成 23 年 7 月 日本心理学諸学会連合理事長 (～平成 25 年 6 月)  
平成 25 年 4 月 一般財団法人日本心理研修センター副理事長 (～現在に至る)  
平成 26 年 4 月 Psychologia Society 会長 (～現在に至る)  
平成 27 年 7 月 日本心理学諸学会連合理事長 (～現在に至る)

## 社会的貢献

NHK 放送文化研究所主宰「“子どもに良い放送”プロジェクト」共同研究者（平成 14 年度～現在に至る）

読売新聞大阪本社主宰「よみうり子育て応援団」団員（平成 13 年度～現在に至る）

読売新聞大阪本社主宰「よみうり子育て応援団大賞」選考委員（平成 19 年度～）及び同選考委員長（平成 26 年度～現在に至る）.

## 集中講義

平成 4 年度	高知大学教育学部
平成 4 年度	九州大学教育学部
平成 6 年度	広島大学教育学部
平成 9 年度	都立大学人文学部
平成 10 年度	名古屋大学教育学部
平成 10 年度	東京大学大学院教育学研究科
平成 11 年度	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科客員教授（平成 11 年 10 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日）
平成 12 年度	立命館大学大学院文学研究科
平成 13 年度	兵庫教育大学大学院教育学研究科
平成 14 年度	鹿児島大学教育学部
平成 21 年度	東北大学大学院教育学研究科
平成 22 年度	人間発達研究所

# 研究業績一覧

## 1. 著書

- 著書-1: 子安増生 (1978). 感情と欲求の発達. 堀ノ内敏編著, 『児童心理学』. 福村出版, pp. 100-110.
- 著書-2: 子安増生 (1980). 個人差と教育. 堀ノ内敏・岩井勇児編著, 『教育心理学』. 福村出版, pp. 37-55.
- 著書-3: 子安増生 (1980). 個人差の起原-IQ 論争 (pp. 73-111). 遺伝と個人差 (pp. 112-137). 岩井勇児・子安増生著, 『個人差の心理学』. 黎明書房.
- 著書-4: 子安増生 (1980). 子どもとの接しかた (pp. 79-89). 授業中の子ども (pp. 90-94). 岩井勇児編著, 『教育実習ハンドブック』. 福村出版.
- 著書-5: 子安増生 (1981). 論理的思考の形成. 梅本堯夫編著, 『教職心理学講座 1 教育心理学』. 第一法規出版, pp. 101-112.
- 著書-6: 子安増生 (1981). 人間としての成長. 小嶋秀夫・松田惺編, 『小学生の心理』. 有斐閣, pp. 129-148.
- 著書-7: 子安増生 (1982). 大人の論理が分かるまで. 岩井勇児編, 『小学生の心理と教育』. 福村出版, pp. 97-126.
- 著書-8: 子安増生 (1982). 「前操作的」児童の認知的コンピテンスとパフォーマンス. 天岩静子編, 『ピアジェ双書 5 ピアジェ派心理学の発展 II』. 国土社, pp. 59-88.
- 著書-9: 子安増生 (1983). 現代文化と青年. 堀ノ内敏編著, 『青年心理学』. 福村出版, pp. 132-145.
- 著書-10: 子安増生 (1983). 児童をめぐる教育環境. 末田啓二・那須光章編, 『教職のための教育心理学』. 学術図書出版社, pp. 24-37.
- 著書-11: 子安増生 (1983). 進路選択. 井上公大・斉藤稔正編, 『資料で語る青年心理学』. pp. 167-182.
- 著書-12: 子安増生 (1983). 知能. 三宅和夫・村井潤一・波多野誼余夫・高橋恵子編, 『波多野・依田 児童心理学ハンドブック』. 金子書房, pp. 366-393.
- 著書-13: 子安増生 (1984). 心理学の方法. 堀ノ内敏編著, 『心理学 [改訂版]』. 福村出版, pp. 26-42.
- 著書-14: 子安増生 (1985). 形式的推理. 梅本堯夫編, 『教育心理学の展開』. 新曜社, pp. 93-99.
- 著書-15: 子安増生 (1987). 青年期の知的活動. 鈴木康平・松田惺編, 『現代青年心理学』. 有斐閣, pp. 43-55.
- 著書-16: 子安増生 (1987). 『幼児にもわかるコンピュータ教育—LOGO プログラミングの



学習』. 福村出版 (全 230 ページ).

著書-17: 子安増生 (1988). 幼児の知能の発達とその検査. 前川喜平・三宅和夫編, 『別冊 発達 8. 発達検査と発達援助—誕生から3歳まで』. ミネルヴァ書房, pp. 206-214.

著書-18: 子安増生 (1990). メタファー研究の方法. 芳賀純・子安増生編, 『メタファーの心理学』. 誠信書房, pp. 33-62.

著書-19: 子安増生 (1992). 教育心理学の課題 (pp. 1-27). 発達過程の理解 (pp. 29-51). 適応と障害の理解 (pp. 53-69). 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著, 『ベーシック現代心理学 6 教育心理学』. 有斐閣.

著書-20: 子安増生編 (1992). 『キーワードコレクション 発達心理学』. 新曜社. [「イントロダクション」(pp. 2-5), 「コーホート分析」(pp. 12-15), 「遺伝研究法」(pp. 40-43), 「初期経験」(pp. 54-57), 「鏡映書字」(pp. 124-127), 「ニューメラシー (計算能力)」(pp. 146-149), 「優秀児」(pp. 158-161), 「イニシエーション」(pp. 172-175), 「加齢 (老化)」(pp. 202-205), 「幸福」(pp. 214-218) の 10 項目担当 ].

著書-21: 子安増生 (1992). 知能. 東洋・繁多進・田島信編, 『発達心理学ハンドブック』. 福村出版, pp. 603-617.

著書-22: 子安増生・菊池聡 (1992). 多重知能テスト—あなたの脳をテストする. 矢沢サイエンスオフィス編, 『最新科学論シリーズ 20 最新脳機械論』. 学習研究社, pp. 115-128.

著書-23: 子安増生 (1993). 問題解決・推理の発達. 湯川良三編, 『新・児童心理学講座 4 知的機能の発達』. 金子書房, pp. 128-164.

著書-24: 子安増生 (1993). 16ビット CPU 搭載テレビゲームが小学生の認知発達に及ぼす影響のアセスメント調査. 財団法人佐藤玩具文化財団, 『教育者・研究者のための遊び・おもちゃに関する研究集 1—奨励研究成果集』. pp. 112-124.

著書-25: 子安増生 (1993). 教室での学習過程. 小嶋秀夫編, 『新・教職教養シリーズ第 6 巻 発達と学習』. 協同出版, pp. 127-145.

著書-26: 子安増生 (1993). ピアジェ課題. 無藤隆編, 『別冊発達 15 現代発達心理学入門』. ミネルヴァ書房, pp. 170-180.

著書-27: 子安増生 (1994). 子どもの個性を生かすニューメディア. 子安増生・山田富美雄編, 『ニューメディア時代の子どもたち』. 有斐閣, pp. 2-28.

著書-28: 子安増生 (1994). メディアと認知発達. 原島博・広瀬通孝・下條信輔編, 『bit 別冊仮想現実学への序曲』. 共立出版, pp. 158-165.

著書-29: 子安増生 (1995). 知能. 白樫三四郎編, 『現代心理学への招待』. ミネルヴァ書房, pp. 102-117.

著書-30: 子安増生 (1996). 『生涯発達心理学のすすめ—人生の四季を考える』. 有斐閣 (全 215 ページ).

著書-31: 子安増生 (1996). 認知の発達. 大村彰道編, 『教育心理学 I 発達と学習指導の

- 心理学』. 東京大学出版会, pp. 1-18.
- 著書-32: 子安増生 (1997). 『子どもが心を理解するとき』. 金子書房 (全 206 ページ).
- 著書-33: 子安増生 (1997). 幼児は他者の心をどのように理解しているか. 第 11 回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編, 『認知・言語の成立—人間の心の発達』. クバプロ, pp. 44-54.
- 著書-34: 子安増生 (1998). 小学生の「察する」心の成長. 丸野俊一・子安増生編著, 『子どもが「こころ」に気づくとき』. ミネルヴァ書房, pp. 57-81.
- 著書-35: 子安増生 (1999). 『幼児期の他者理解の発達—心のモジュール説による心理学的検討』. 京都大学学術出版会 (全 331 ページ).
- 著書-36: 子安増生 (1999). 悪意を知り、悪意を抑える心の教育. 行吉哉女・田中敏隆編著, 『心理学者が語る心の教育—未来を託す子どもたちへ、58 のメッセージ』. 実務教育出版, pp. 94-97.
- 著書-37: 子安増生 (1999). 心の理解の発達. 正高信男編, 『ことばと心の発達 (1) 赤ちゃんの認識世界』. ミネルヴァ書房, pp. 231-279.
- 著書-38: 子安増生 (2000). 『心の理論—心を読む心の科学』. 岩波書店 (全 134 ページ).
- 著書-39: 子安増生・服部敬子・郷式徹 (2000). 『幼児が「心」に出会うとき—発達心理学から見た縦割り保育』. 有斐閣. [「子どもの心が育つとき」(pp. 35-70) および「引き出す教育、見守る教育」(pp. 175-216) 担当].
- 著書-40: 子安増生 (2001). 多重知能理論からみた教育改革批判. 西村和雄編, 『「本当の生きる力」を与える教育とは』. 日本経済新聞社, pp. 138-172.
- 著書-41: 子安増生 (2001). 京大の教官の研究内容 (pp. 60-63). 京都大学で学ぶ (pp. 205-226). 京都大学心理学教官連絡会編, 『21 世紀の心理学に向かって—京都大学の現状と未来』. ナカニシヤ出版.
- 著書-42: 子安増生 (2001). 認知発達の理論—ピアジェ学派. 中島義明編, 『現代心理学 [理論] 事典』. 朝倉書店, pp. 428-448.
- 著書-43: 和田秀樹・子安増生 (2002). 『親しかできない、子どもを賢くする方法』. 小学館 (全 255 ページ).
- 著書-44: 子安増生 (2002). 認知発達の機構. 田島信元・子安増生・森永良子・菅野敦編著, 『認知発達とその支援』. ミネルヴァ書房, pp. 41-48.
- 著書-45: 子安増生 (2002). 心理学研究における二項対立を超えて. 下山晴彦・子安増生編著, 『心理学の新しいかたち』. 誠信書房, pp. 213-255.
- 著書-46: 子安増生 (2003). 教育心理学の基本用語. 日本教育心理学会編, 『教育心理学ハンドブック』. 有斐閣, pp. 243-265.
- 著書-47: 子安増生 (2003). 教育心理学の課題 (pp. 1-28). 発達過程の理解 (pp. 29-53). 適応と障害の理解 (pp. 55-71). 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著, 『[新版] 教育心理学』. 有斐閣.

- 著書-48: 子安増生・二宮克美編 (2004). 『キーワードコレクション 発達心理学 [改訂版]』. 新曜社. [「歴史的概観」(pp. 2-5), 「コーホート分析」(pp. 20-23), 「視覚的断崖」(pp. 108-111), 「頭足人」(pp. 116-119), 「リテラシー／ニューメラシー」(pp. 128-131), 「心の理論」(pp. 138-141) の6項目担当].
- 著書-49: 子安増生・二宮克美編 (2005). パーソナリティ・知能. 中島義明・繁榊算男・箱田裕司編, 『新・心理学の基礎知識』. 有斐閣. [項目 9-18, 9-19 担当]
- 著書-50: 子安増生 (2005). 芸術心理学の新しいかたち—多重知能理論の展開. 子安増生編, 『芸術心理学の新しいかたち』. 誠信書房, pp. 1-27.
- 著書-51: 子安増生 (2005). 「心を読む」心の科学. 岩波書店編集部編, 『ブックガイド〈心の科学〉を読む』. 岩波書店, pp. 49-61.
- 著書-52: 子安増生編 (2005). 『よくわかる 認知発達とその支援』. ミネルヴァ書房. [「発達」「発生的認識論」「知覚の発達」「知能の発達」「認知の発達」「プロライフ／プロチョイス」「描画の発達」「自己中心性」「視線／視点」「英才教育」「ヘッドスタート計画」「直観像」「コンピュータ教育」「リーダーシップ」「老年期」「死」「視覚障害」「色覚異常」「聴覚障害」「サヴァン症候群」の20項目担当].
- 著書-53: 二宮克美・子安増生編 (2006). 『キーワードコレクション パーソナリティ心理学』. 新曜社. [「法則定立と個性記述」「社会的かしこさ」「創造性」「動物の知能」「機械の知能」「知能の障害」の6項目担当].
- 著書-54: 子安増生 (2007). 「心を読み取る—心の理論の発達」(pp. 95-107). 「才能をはぐくむ—多重知能理論と教育」(pp. 127-137). 「メディアからの学び—メディア環境と発達」(pp. 167-179). 内田伸子・氏家達夫編, 『発達心理学特論』. 放送大学教育振興会.
- 著書-55: 子安増生・田村綾菜・溝川藍 (2007). 感情の成長: 情動調整と表示規則の発達. 藤田和生編, 『感情科学』. 京都大学学術出版会, pp. 143-171.
- 著書-56: 子安増生 (2007). 「心の理論」とメタファー・アイロニー理解の発達. 楠見孝編, 『メタファー研究の最前線』. ひつじ書房, pp. 61-80.
- 著書-57: 子安増生 (2007). インTRODクシヨン—経済学と心理学の協同に向けて (pp. 1-12). 経済活動に関する信念と知識—仮説検証的思考 (pp. 215-238). 子安増生・西村和雄編, 『経済心理学のすすめ』. 有斐閣.
- 著書-58: 子安増生・二宮克美編 (2008). 『キーワードコレクション 心理学フロンティア』. 新曜社. [「メンタライジング」「モジュール説」の2項目担当].
- 著書-59: Ando, H., & Koyasu, M. (2008). Differences between acting as if one is experiencing pain and acting as if one is pretending to have pain among actors at three expertise levels. Itakura, S., & Fujita, K. (Eds.), *Origins of social mind: Evolutionary and developmental views* (pp. 123-140). Tokyo: Springer.
- 著書-60: 子安増生 (2009). 先の手を読む—思考・問題解決・推理. 繁榊算男・丹野義彦編

- 著, 『心理学の謎を解く—初めての心理学講義』. 医学出版, pp. 73-96.
- 著書-61: Lewis, C., Koyasu, M., Oh, S., Ogawa, A., Short, B. & Huang, Z. (2009). Culture, executive function and social understanding. In Lewis, C. & Carpendale, J. I. M. (Eds.), *Social interaction and the development of executive function* (pp. 69-85). *Monograph in the series New Directions in Child and Adolescent Development*, Issue 123. San Francisco, CA: Jossey Bass.
- 著書-62: 子安増生 (2009). 序にかえて. 学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構編, 『臨床発達心理士 わかりやすい資格案内 [第2版]』. 金子書房.
- 著書-63: 二宮克美・子安増生編 (2009). 『キーワードコレクション 教育心理学』. 新曜社. [「教室空間」「連合説と認知説」「フォローアップ研究」「芸術と教育」「メディアと教育」の5項目担当].
- 著書-64: 子安増生 (2009). 心が活きる教育に向かつて (pp. 1-16). 子どもはいつから幸福を感じるか (pp. 193-194). 子安増生編, 『心が活きる教育に向かつて—幸福感を紡ぐ心理学・教育学』. ナカニシヤ出版.
- 著書-65: 子安増生 (2009). 教育学研究科・教育学部の改革と現状—1 教育の改革 (pp. 37-58). 21世紀COEとグローバルCOE. 教育の改革 (pp. 373-376). 京都大学教育学部六十年史編集委員会編, 『京都大学教育学部六十年史 (1989-2009)』.
- 著書-66: 子安増生 (2009). 「心の理論」の発達. 榊原洋一編, 『別冊発達30. アスペルガー症候群の子どもの発達理解と発達援助』. ミネルヴァ書房, pp. 105-112.
- 著書-67: 子安増生 (2010). 「心の理論」からみた小児の発達とその評価. 久保田雅也 (編), 『小児科臨床ピクシス19. ここまでわかった小児の発達』. 中山書店, pp. 90-93.
- 著書-68: 子安増生 (2010). 教育心理学から見た望ましいカリキュラムと教育評価. 西村和雄・大森不二雄・倉元直樹・木村拓也編, 『混迷する評価の時代—教育評価を根底から問う』. 東信堂, pp. 37-59.
- 著書-69: 楠見 孝・子安増生監修, 道田泰司・林 創・平山るみ (2010). 『クリティカルシンキング—情報を吟味・理解する力を鍛える—』. ベネッセコーポレーション.
- 著書-70: 子安増生 (2011). 臨床発達心理学における発達の基礎. 本郷一夫・金谷京子編著, 『臨床発達心理学・理論と実践① 臨床発達心理学の基礎』. ミネルヴァ書房, pp. 22-29.
- 著書-71: 子安増生 (2011). 「心の理論」の獲得と語用論的言語理解の発達. エレン・ウィナー (著), 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ (訳) 『ことばの裏に隠れているもの—子どもがメタファー・アイロニーに目覚めるとき』. ひつじ書房, pp. 243-246.
- 著書-72: 子安増生 (2011). 発達心理学の基礎 (pp. 9-27). 多重知能理論と教育 (pp. 97-113). メディアと発達 (pp. 114-131). 幼児期の心の発達 (pp. 162-179). 子安増生編著, 『新訂 発達心理学特論』. 放送大学教育振興協会.

- 著書-73 : 子安増生 (2011). 心の発達と時間. 日本発達心理学会編, 子安増生・白井利明 (責任編集), 『発達心理学ハンドブック 3 時間と人間』. 新曜社, pp. 1-15.
- 著書-74 : 子安増生 (2011). 第 1 章 心理学とは (pp. 2-3). 1-2 心理学の方法 (pp. 10-23) . 第 8 章 個性と人格 Overview (pp. 178-179). 8-2 知能 (pp. 183-189). 9-3-1 児童期 (pp. 216-219). 第 14 章 関連領域 Overview (pp. 340-341). 14-1-1 芸術 (pp. 341-343). 京都大学心理学連合編, 『心理学概論』. ナカニシヤ出版,
- 著書-75 : 二宮克美・子安増生編 (2011). 『キーワードコレクション 社会心理学』. 新曜社. [「認知革命」「実験パラダイム」の 2 項目担当]
- 著書-76 : 子安増生 (2011). 序章 自己と他者——発達のアプローチ. 子安増生・大平英樹編, 『ミラーニューロンと〈心の理論〉』. 新曜社, pp. 1-20.
- 著書-77 : 子安増生・二宮克美編 (2011). 『キーワードコレクション 認知心理学』. 新曜社. [「プラグマティックな言語使用」「表現行動」の 2 項目担当].
- 著書-78 : 子安増生 (2011). 批判的思考力の知的側面——学士力をどう獲得するか. 楠見孝・子安増生・道田泰司編, 『批判的思考力を育む——学士力と社会人基礎力の基盤形成』. 有斐閣, pp. 25-44.
- 著書-79 : 子安増生 (2011). 発達心理学とは. 無藤隆・子安増生編, 『発達心理学 I』. 東京大学出版会, pp. 1-37.
- 著書-80 : 子安増生 (2012). 幸福感を支える「教育の力」. 子安増生・杉本均編, 『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』. ナカニシヤ出版, pp. 1-37.
- 著書-81 : 子安増生 (2012). アート教育. 岩田誠・河村満編, 『脳とアトー感覚と表現の脳科学』. 医学書院, pp. 111-124.
- 著書-82 : 無藤隆・子安増生編 (2013). 『発達心理学 II』. 東京大学出版会. [編集のみ担当]
- 著書-83 : 子安増生 (2014). 幸福感の向上を政策目標に. 子安増生・仲真紀子編, 『心が育つ環境をつくる—発達心理学からの提言』. 新曜社, pp. 235-255.
- 著書-84 : 子安増生 (2015). 叡智—社会的成功をもたらす知性 (pp. 72-75). 論理的思考—筋道を立てて考える (pp. 90-93). 楠見孝・道田泰司編, 『ワードマップ批判的思考—21 世紀を生き抜くリテラシーの基礎』. 新曜社.
- 著書-85 : Hashimoto, K., & Koyasu, M. (2015). Effects of optimism and positive orientation on subjective wellbeing of Japanese university students. In M. A. Henning, C. U. Krägeloh, & G. Wong-Toi (Eds.), *Student motivation and quality of life in higher education* (Chapter 11, pp. 90-98). Abingdon, UK: Routledge.
- 著書-86 : 子安増生 (2015). 教育心理学の課題 (pp. 1-28) . 発達過程の理解 (pp. 29-54) . 適応と障害の理解 (pp. 55-74) . 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著, 『教育心理学 [第 3 版]』. 有斐閣.
- 著書-87 : Manalo, E., Kusumi, T., Koyasu, M., Michita, Y., & Tanaka, Y. (2015). Do students from different cultures think differently about critical and other thinking skills? In M. Davies,

& R. Barnett (Eds.), *Palgrave handbook of critical thinking in higher education* (pp. 299-316). New York: Palgrave Macmillan.

- 著書-88 : 子安増生. (2016). いまなぜ「心の理論」を学ぶのか. 子安増生編, 『「心の理論」から学ぶ発達的基础——教育・保育・自閉症理解への道』 (pp. 3-16), ミネルヴァ書房.
- 著書-89 : 子安増生. (2016). 心の理論研究 35 年 : 第 2 世代の研究へ. 子安増生・郷式徹編, 『心の理論—第 2 世代の研究へ』 (pp. 1-14), 新曜社.
- 著書-90 : 子安増生. (2016). 心のモデルのデザイン. 子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗編, 『教育認知心理学の展望』 (pp. 1-15), ナカニシヤ出版.
- 著書-91 : 子安増生. (2016). 発達・教育. 子安増生編, 『アカデミック・ナビ 心理学』 (pp. 85-129), 勁草書房. 印刷中.
- 著書-92 : 子安増生・楠見孝. (2016). 教育のデザイン. 石田亨編, 『デザイン学概論』, 共立出版. 印刷中.
- 著書-93 : Koyasu, M. (2016). Cognitive development research in Japan: Past, present, and future. In Japan Society of Developmental Psychology (Ed.), *Frontiers in developmental psychology research: Japanese perspectives*. Tokyo: Hituzi Syobo Publishing. 印刷中.
- 著書-94 : 子安増生. (2016). 新しい市民リテラシーとしての人口学リテラシー. 楠見孝・道田泰司編, 『批判的思考の最前線』 (pp. 136-152), 誠信書房. 印刷中.
- 著書-95 : 子安増生. (2016). 認知発達のプロセス. 本郷一夫・田爪宏二編, 『新シリーズ 臨床発達心理学 第3巻 認知発達とその支援』 (第2章), ミネルヴァ書房. 印刷中.

## 2. 論文

- 論文-1 : Koyasu, M. (1976). A developmental study in hypothesis-testing process during concept identification task: Pictorial versus verbal presentation. *Psychologia*, **Vol. XIX**, 139-148.
- 論文-2 : 子安増生 (1977). 概念学習課題における仮説検証過程の研究—文献展望—. 京都大学教育学部紀要, **23**, 185-196.
- 論文-3 : 橘良治・子安増生 (1978). 達成動機づけとアナグラム解決課題の関係について. 教育心理学研究, **26**, 252-256.
- 論文-4 : 子安増生 (1979). 新訂京大 NX5-8 知能検査の項目分析. 愛知教育大学研究報告 [教育科学], **28**, 109-122.
- 論文-5 : 子安増生 (1979). 思考. 児童心理学の進歩, **Vol. XVIII**, 63-90.
- 論文-6 : 子安増生・今栄国晴 (1980). 教育実習の現状と改善に関する全国教員養成大学・学部教官の意見調査 (続報). 愛知教育大学研究報告 [教育科学], **29**, 145-158.
- 論文-7 : 子安増生 (1980). 児童における比例概念の発達過程 (1) 序論. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **4**, 23-35.

- 論文-8: 子安増生 (1981). 青年期における形式的操作思考の研究—Siegler のルール・モデルによる天秤課題および確率課題の分析—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **30**, 123-136.
- 論文-9: 子安増生 (1981). 児童における比例概念の発達過程 (2) 天秤の均衡と確率について. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **5**, 227-238.
- 論文-10: 子安増生 (1982). メタファの心理学的研究—その理論的および方法論的検討—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **31**, 165-180.
- 論文-11: 子安増生・加藤元康 (1983). 含意理解の促進要因と妨害要因—マッチング・バイアス仮説と洞察モデルの実験的検証—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **32**, 163-181.
- 論文-12: 子安増生 (1983). 幼児および年少児童の数の理解—subitizing と counting の問題を中心に—. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **7**, 85-92.
- 論文-13: 子安増生 (1984). 含意理解の促進要因としての「現実的条件」の効果の実証的再検討. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **33**, 147-164.
- 論文-14: 子安増生・石田淳一 (1984). 小学1年生の算数文章題の解決に影響する要因について—意味タイプ, 数の大きさ, 操作活動の効果の検討. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **8**, 103-110.
- 論文-15: 子安増生 (1985). 知能検査のコンピュータ化に関する基礎開発的研究—京大NX15-知能検査のマトリックスと符号交換を材料として—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **34**, 175-191.
- 論文-16: 子安増生 (1985). コメント—知的能力の評価について. 児童心理学の進歩, **Vol. XXIV**, 329-333.
- 論文-17: 子安増生 (1986). メタファの表現効果に関する心理学的研究—効果的表現と婉曲的表現の比較—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **35**, 137-153.
- 論文-18: 子安増生 (1986). 子どものコンピュータ・リテラシーの教育—LOGO プログラミングの学習を中心に—. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **10**, 201-211.
- 論文-19: 子安増生 (1986). 教授・学習研究の動向—コンピュータ教育を中心に—. 教育心理学年報, **25**, 98-106.
- 論文-20: 子安増生 (1987). 幼児の速度認知の発達に関する実験的研究. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **36**, 139-147.
- 論文-21: 子安増生・坂爪ひとみ (1987). 小学生およびその両親のテレビ・ゲーム利用に関する実態ならびに意識調査. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **11**, 1-12.
- 論文-22: 子安増生 (1987). コメント—「認知発達の道具としてのコンピュータの可能性」について. 児童心理学の進歩, **Vol. XXVI**, 305-309.
- 論文-23: 子安増生 (1988). 自己の名前に関する意識調査—女子大学生の姓名観—. 愛知教育大学研究報告〔教育科学〕, **37**, 143-159.

- 論文-24: 石田淳一・子安増生 (1988). 小学校低学年の算数文章題における計算の意味理解の研究—演算決定および式のよみに焦点をあてて—. 科学教育研究, **12**, 14-21.
- 論文-25: 子安増生 (1988). コンピュータ教育における児童のキーボード入力に関する一考察. 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **12**, 57-69.
- 論文-26: 子安増生 (1989). 社会的知能の研究—文献展望—. 京都大学教育学部紀要, **35**, 134-153.
- 論文-27: 子安増生 (1990). 幼児の空間的自己中心性 (I) —Piaget の3つの山問題とその追試研究—. 京都大学教育学部紀要, **36**, 81-114.
- 論文-28: 子安増生 (1991). 幼児の空間的自己中心性 (II) —Piaget の3つの山問題の関連実験と理論的考察—. 京都大学教育学部紀要, **37**, 124-154.
- 論文-29: 子安増生 (1991). コンピュータ教育. 児童心理学の進歩, **Vol. XXX**, 207-227.
- 論文-30: 子安増生・菊池聡 (1993). 空間関係の認知に及ぼす映像情報の提示様式の効果—実物とビデオとコンピュータ・グラフィックスの比較. 京都大学教育学部紀要, **39**, 22-41.
- 論文-31: 子安増生 (1994). 大学の教養教育における文科系—理科系の区分のあり方について. 京都大学教育学部紀要, **40**, 130-151.
- 論文-32: 子安増生 (1995). 英国における高等教育教授システムについて. 京都大学高等教育研究, **1**, 46-53.
- 論文-33: 子安増生 (1996). イギリスの発達心理学の歴史と現状. 京都大学教育学部紀要, **42**, 24-52.
- 論文-34: 子安増生・藤田哲也 (1996). ティーチング・アシスタント制度の現状と問題点—教育学部教育心理学科のケース. 京都大学高等教育研究, **2**, 77-83.
- 論文-35: 子安増生・木下孝司 (1997). 〈心の理論〉研究の展望. 心理学研究, **68**, 51-67.
- 論文-36: 子安増生 (1997). 巻頭言: 「心の理論」の特集にあたって. 心理学評論, **40**, 3-7.
- 論文-37: 子安増生 (1997). 幼児の「心の理論」の発達—心の表象と写真の表象の比較. 心理学評論, **40**, 97-109.
- 論文-38: Koyasu, M. (1997). Can visual feedback effect perspective-taking behavior in young children? *Psychologia*, **40**, 91-103.
- 論文-39: 子安増生・藤田哲也・前平泰志・山口健二 (1997). 京都大学教官を対象とするティーチング・アシスタントに関する調査 (1) 質問紙調査のデータ分析. 京都大学高等教育研究, **3**, 64-76.
- 論文-40: 前平泰志・山口健二・子安増生・藤田哲也 (1997). 京都大学教官を対象とするティーチング・アシスタントに関する調査 (2) 自由記述の分析. 京都大学高等教育研究, **3**, 77-85.
- 論文-41: 川村康文・子安増生 (1998). 力学法則における高校生の関心・意欲と理解度を高めるための実験演示法の開発. 科学教育研究, **22**, 32-41.



- 論文-42 : 子安増生・西垣順子・服部敬子 (1998). 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査. 京都大学教育学部紀要, **44**, 1-23.
- 論文-43 : 子安増生 (1998). 大学院における遠隔個別指導について. 京都大学高等教育研究, **4**, 82-88.
- 論文-44 : 子安増生 (1999). 情報化社会における子どもの心理発達の変異と異変. 教育学研究, **66**, 68-69.
- 論文-45 : 子安増生・服部敬子 (1999). 幼児の交互交代と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **45**, 1-16.
- 論文-46 : Furnham, A., Ota, H., Hosoe, T., & Koyasu, M. (2000). Beliefs about overcoming psychological problems among British and Japanese students. *Journal of Social Psychology*, **140**, 63-74.
- 論文-47 : 川村康文・子安増生 (2000). 放物運動学習におけるコンピュータ・シミュレーションの先行オーガナイザ的利用. 京都教育大学教育実践研究年報, **16**, 85-98.
- 論文-48 : 子安増生・服部敬子・郷式徹 (2000). 「心の理論」獲得前後の他者の心の理解過程—事例分析による検討. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **46**, 1-25.
- 論文-49 : 子安増生・郷式徹・中村素典 (2000). 教育学部学生の情報リテラシー教育の最適化に関する研究 (I) : 入学直後から3カ月後への変化. 京都大学高等教育研究, **6**, 82-88.
- 論文-50 : 子安増生 (2001). 多重知能理論からみた近年の教育改革批判. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **47**, 28-50.
- 論文-51 : Cox, M.V., Koyasu, M., Hiranuma, H., & Perara, J. (2001). Children's human figure drawings in the UK and Japan: The effects of age, sex, and culture. *British Journal of Developmental Psychology*, **19**, 275-292.
- 論文-52 : 子安増生・林創・郷式徹・中村素典 (2001). 教育学部学生の情報リテラシーの最適化に関する研究 (II) : 最終回までに学生が獲得したこと. 京都大学高等教育研究, **7**, 131-143.
- 論文-53 : 子安増生・鈴木亜由美 (2002). 幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **48**, 63-83.
- 論文-54 : Koyasu, M. (2002). Editorial. *Psychologia*, **45**, 143.
- 論文-55 : Koyasu, M. (2002). Obituary: Takao Umemoto (1921-2002). *Psychologia*, **45**, 205-206.
- 論文-56 : 子安増生・林創・西尾新・中村素典 (2002). 教育学部学生の情報リテラシーの最適化に関する研究 (III) : コンピュータ・リテラシー・テストによる効果の評価. 京都大学高等教育研究, **8**, 149-165.
- 論文-57 : 子安増生・郷式徹・服部敬子 (2003). 縦割り保育の幼稚園における「心の理論」および関連する能力の縦断的研究. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **49**, 1-21.
- 論文-58 : 子安増生 (2003). 梅本堯夫先生のご逝去を悼む. 教育心理学研究, **50**, 500-501.

- 論文-59 : 子安増生・橋本京子 (2003). 大学進学動機とポジティブな自己信念が大学生活におけるストレス対処に及ぼす影響. 京都大学高等教育研究, **9**, 13-22.
- 論文-60 : 子安増生・龍輪飛鳥 (2004). 運動図形に対する心的状態の付与に及ぼす図形の種類と運動パターンの効果. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **50**, 1-21.
- 論文-61 : 安藤花恵・子安増生 (2004). 演劇経験の有無による味覚表情の表出ならびに演技の差異. 認知科学, **11**, 61-74.
- 論文-62 : 子安増生 (2004). 心の理論. 小児科臨床, **57** (増刊号), 1243-1248.
- 論文-63 : 鈴木亜由美・子安増生・安寧 (2004). 幼児の意図理解と社会的問題解決能力の発達: 「心の理論」との関連から. 発達心理学研究, **15**, 292-301.
- 論文-64 : 子安増生・森本裕子・林 創 (2005). 利害葛藤のない場面において互酬性の期待が順社会的行動に及ぼす影響—繰り返し二者間囚人のジレンマゲームを用いて. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **51**, 1-17.
- 論文-65 : 子安増生 (2005). 「心の理論」からみたコミュニケーション. 作業療法ジャーナル, **39(9)**, 880-885.
- 論文-66 : 藤村宣之・子安増生 (2005). 児童期における経済学的理解の発達—貯蓄・購買行動と経済的事象に関する推理. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, **52**, 1-7.
- 論文-67 : 子安増生・林創・西尾新 (2005). 教育学部学生の情報リテラシーの最適化に関する研究 (IV): コンピュータ実技テストによるスキル評価. 京都大学高等教育研究, **10**, 45-57.
- 論文-68 : 子安増生・西垣順子 (2006). 小学生における物語文の読解パターンと「心の理論」の関連性. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **52**, 47-64.
- 論文-69 : Manalo, E., Koyasu, M., Hashimoto, K., & Miyauchi, T. (2006). Factors that impact on the academic motivation of the Japanese University students in Japan and in New Zealand. *Psychologia*, **49**, 114-131.
- 論文-70 : 子安増生 (2006). 幼児教育の現場におけるパーティシペーション. 心理学評論, **49**, 419-430.
- 論文-71 : 子安増生・郷式徹 (2007). 大学生における両親の期待度とその実現度の認知の比較. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **53**, 1-12.
- 論文-72 : Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2007). Young children's understanding of another's apparent crying and its relationship to theory of mind. *Psychologia*, **50**, 291-307.
- 論文-73 : 子安増生 (2008). 祝『心理学評論』刊行 50 周年. 心理学評論, **50**, 440-441.
- 論文-74 : 小川絢子・子安増生 (2008). 幼児における「心の理論」と実行機能の関連性: ワーキングメモリと葛藤抑制を中心に. 発達心理学研究, **19**, 171-182.
- 論文-75 : 溝川藍・子安増生 (2008). 児童期における見かけの泣きの発達: 二次的誤信念の理解との関連の検討. 発達心理学研究, **19**, 209-220.

- 論文-76 : Koyasu, M. (2009). Young children's development of understanding self, other, and language. *Kyoto University Research Studies in Education*, **55**, 1-13.
- 論文-77 : 子安増生 (2009). 発達心理学から見た望ましいカリキュラムと教育評価, クオリティ・エデュケーション (国際教育学会), **2**, 59-77.
- 論文-78 : 楠見孝・中本敬子・子安増生 (2010). 痛みの比喩表現の身体感覚と認知の構造. *心理学研究*, **80**, 467-475.
- 論文-79 : 小川絢子・子安増生 (2010). 幼児期における他者の誤信念に基づく行動への理由づけと実行機能の関連性. *発達心理学研究*, **21**, 232-243.
- 論文-80 : 橋本京子・子安増生 (2011). 楽観性とポジティブ志向および主観的幸福感の関連について. *パーソナリティ研究*, **19**, 233-244.
- 論文-81 : 溝川藍・子安増生 (2011). 5, 6 歳児における誤信念及び隠された感情の理解と園での社会的相互作用の関連. *発達心理学研究*, **22**, 168-178.
- 論文-82 : Hashimoto, K., & Koyasu, M. (2012). Influences of optimism and positive orientation on students' subjective well-being. *Psychologia*, **55**, 45-59.
- 論文-83 : Koyasu, M. (2012). Economics, psychology, and happiness. *Kyoto University Research Studies in Education*, **58**, 71-82.
- 論文-84 : 古見文一・子安増生 (2012). ロールプレイ体験がマインドリーディングの活性化に及ぼす効果. *心理学研究*, **83**, 18-26.
- 論文-85 : 子安増生・楠見孝・Moises Kirk de Carvalho Filho・橋本京子・藤田和生・鈴木晶子・大山泰宏・Carl Becker・内田由紀子・David Dalsky・Ruprecht Mattig・櫻井里穂・小島隆次 (2012). 幸福感の国際比較研究—13 カ国のデータ. *心理学評論*, **55**, 75-89.
- 論文-86 : 橋本京子・子安増生 (2012). 楽観性とポジティブ志向が幸福感に及ぼす影響. *心理学評論*, **55**, 178-190.
- 論文-87 : 野崎優樹・子安増生 (2013). 大学入試に対する認知的評価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果. *パーソナリティ研究*, **21**, 231-243.
- 論文-88 : Furumi, F., & Koyasu, M. (2013). Role-play experience facilitates reading the mind of individuals with different perception. *PLoS ONE*, **8** (9), e74899. doi:10.1371/journal.pone.0074899
- 論文-89 : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). The Relationship between trait emotional intelligence and interaction with ostracized others' retaliation. *PLoS ONE*, **8**(10), e77579. doi: 10.1371/journal.pone. 0077579
- 論文-90 : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). Effects of emotional intelligence on inhibiting retaliation for ostracism in Cyberball. *Psychologia*, **56**, 167-178.
- 論文-91 : Manalo, E., Kusumi, T., Koyasu, M., Michita, Y., & Tanaka, Y. (2013). To what extent do culture-related factors influence university students' critical thinking use? *Thinking*

*Skills and Creativity*, **10**, 121-132.

- 論文-92 : 子安増生 (2013). エビデンスを介した研究と実践の循環性. 発達心理学研究, **24**, 426-428.
- 論文-93 : Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2013). Young children's moral judgments about pretend crying: Associations with mental-state understanding. *Psychologia*, **56**, 223-236.
- 論文-94 : Hughes, C., Devine, R. T., Ensor, R., Koyasu, M., Mizokawa, A., & Lecce, S. (2014). Lost in translation? Comparing British, Japanese, and Italian children's theory-of-mind performance. *Child Development Research*, Volume 2014, Article ID 893492, 10 pages. doi.org/10.1155/2014/893492.
- 論文-95 : Furumi, F., & Koyasu, M. (2014). Role-play facilitates children's mind reading of those with atypical color perception. *Frontiers in Psychology*, 5:817.doi: 10.3389/fpsyg.2014.00817
- 論文-96 : Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2014). Digging deeper into the link between socio-cognitive ability and social relationships. *British Journal of Developmental Psychology*, **33**, 21-23. DOI: 10.1111/bjdp.12072
- 論文-97 : 野崎優樹・子安増生 (2015). 情動コンピテンスプロフィール日本語短縮版の作成. 心理学研究, **86**, 160-169.
- 論文-98 : 子安増生 (2015). 子どもの日常生活を支える実行機能—森口論文へのコメント—. 心理学評論, **58**, 89-92.
- 論文-99 : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2015). Interpersonal emotional intelligence reduces the gap in anger regulation confidence caused by self-other dissimilarity. *Psychologia*, **58**, 49-60.
- 論文-100 : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2016). Can we apply an emotional competence measure to an eastern population? Psychometric properties of the Profile of Emotional Competence in a Japanese population. *Assessment*, **23(1)**, 112- 123.
- 論文-101 : 溝川藍・子安増生. (2016). 他者理解と共感性の発達. 心理学評論, **58(3)**, 355-366.
- 論文-102 : 子安増生・野崎優樹. (2016). 人口学リテラシー尺度の開発と分析. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **62**, 1-21.
- 論文-103 : 野崎優樹・子安増生. (2016). 非専門家からみた多重知能理論内での情動コンピテンスの位置づけ. 心理学研究, **86**, 555-565.

### 3. 総説

- 総説-1 : 佐藤勝利・鈴木眞雄・今栄国晴・子安増生・岩井勇児 (1978). 教育実習・事前指導に関する教師と学生の意識 (続報). 教育実習・事前指導に関する研究報告書 (愛知教育大学教育実習・事前指導改善研究会), **2**, pp. 6-25.
- 総説-2 : 鈴木眞雄・子安増生・岩井勇児・佐藤勝利 (1978). 教育実習・事前指導に関する

- 愛知教育大学教官の意識：I. 教育実習・事前指導に関する研究報告書（愛知教育大学教育実習・事前指導改善研究会），**2**, pp. 26-50.
- 総説－3：岩井勇児・鈴木眞雄・佐藤勝利・子安増生（1978）. 教育実習・事前指導に関する愛知教育大学教官の意識：II. 教育実習・事前指導に関する研究報告書（愛知教育大学教育実習・事前指導改善研究会），**2**, pp. 51-76.
- 総説－4：岩井勇児・佐藤勝利・今栄国晴・鈴木眞雄・子安増生（1979）. 教育実習・事前指導に対する実習校教師の意見. 教育実習・事前指導に関する研究報告書（愛知教育大学教育実習・事前指導改善研究会），**3**, pp. 10-42.
- 総説－5：子安増生・鈴木眞雄・岩井勇児・今栄国晴・佐藤勝利（1979）. 教育実習の現状と改善に関する全国教員養成大学・学部教官の意見調査. 教育実習・事前指導に関する研究報告書（愛知教育大学教育実習・事前指導改善研究会），**3**, pp. 43-67.
- 総説－6：子安増生（1988）. コンピュータ教育と LOGO の活用. 『マイコンレーダー』，**3(4)**, 14-17.
- 総説－7：子安増生（1989）. 文献紹介：リチャード・リン著『日本の教育達成—西欧への教訓』. 『IDE・現代の高等教育』，**No. 301**, 53-59.
- 総説－8：子安増生（1989）. 子ども部屋と木質環境. 山田正（研究代表者）編，『人の発達にかかわる木質環境の機能に関する研究』（昭和 63 年度教育研究学内特別経費実施報告書）. pp. 63-67.
- 総説－9：子安増生（1989）. 創造的思考の発達. 『教育と医学』，**7(4)**, 63-69.
- 総説－10：子安増生（1989）. 発達読書室「子ども部屋」. 『季刊 発達』，**10(9)**, 58-60.
- 総説－11：子安増生（1990）. 時－空間の認識と表現，及びその心理学的測定について. 研究代表者・河合隼雄，『時－空間の体験とその認識に関する心理学的研究』（平成元年度特定研究 研究成果報告書）. pp. 65-80.
- 総説－12：子安増生（1990）. 『テレビのコマーシャル・フィルムにおけるメタファー表現の認知心理学的研究』（平成元年度吉田秀雄記念事業財団助成研究報告書）. 全 46 ページ.
- 総説－13：子安増生（1990）. 子どもの映像リテラシーの教育. 『季刊 発達』，**11(4)**, 49-55.
- 総説－14：子安増生（1990）. 《児童期》抽象性の獲得へ，『児童心理』，**44(15)**, 59-62.
- 総説－15：子安増生（1991）. 複雑明快 発達心理学 1 『季刊 発達』，**12(45)**, 53-60.
- 総説－16：子安増生（1991）. 複雑明快 発達心理学 2 遺伝について—母子手帳から考える. 『季刊 発達』，**12(46)**, 87-95.
- 総説－17：子安増生（1991）. 複雑明快 発達心理学 3 出生率の低下について（上）—1・57 ショックの周辺. 『季刊 発達』，**12(47)**, 94-101.
- 総説－18：子安増生（1991）. 複雑明快 発達心理学 4 出生率の低下について（下）—発達心理学から考える. 『季刊 発達』，**12(48)**, 95-103.
- 総説－19：子安増生（1992）. 複雑明快 発達心理学 5 出生前心理学の可能性について. 『季

- 刊 発達』, **13(49)**, 104-111.
- 総説-20: 子安増生 (1992). 複雑明快 発達心理学 6 赤ちゃん—未知との遭遇. 『季刊 発達』, **13(50)**, 105-113.
- 総説-21: 子安増生 (1992). 教育心理学から学校五日制を考える. 『書齋の窓』, **No. 413**, 27-31.
- 総説-22: 子安増生 (1992). 複雑明快 発達心理学 7 幼児—視点の成立と変換. 『季刊 発達』, **13(51)**, 94-101.
- 総説-23: 子安増生 (1992). 複雑明快 発達心理学 8 児童—論理の発達に向かって. 『季刊 発達』, **13(52)**, 103-111.
- 総説-24: 子安増生 (1993). 複雑明快 発達心理学 9 青年—破壊と創造. 『季刊 発達』, **13(53)**, 86-94.
- 総説-25: 子安増生 (1993). 複雑明快 発達心理学 10 老化と死—プログラムされているか. 『季刊 発達』, **13(54)**, 79-86.
- 総説-26: 子安増生 (1993). 子どもがつまづきやすい「関門」を上手に通り返けさせる. 『児童心理』 6月増刊号, 65-70.
- 総説-27: 子安増生 (1993). 認知科学と人間の心理—機械の知を超えることのできない人間の知とは何か? 『アキューム』, **5**, 94-97.
- 総説-28: 子安増生 (1995). 子どもはいつから人の心がわかるのか—「心の理論」の研究から (第1回) 「心の理論」の研究がめざすもの. 『児童心理』, **49(10)**, 100-105.
- 総説-29: 子安増生 (1995). 子どもはいつから人の心がわかるのか—「心の理論」の研究から (第2回) サムからトムへ. 『児童心理』, **49(11)**, 84-89.
- 総説-30: 子安増生 (1995). 子どもはいつから人の心がわかるのか—「心の理論」の研究から (第3回) 児童期の「心の理論」の発達. 『児童心理』, **49(12)**, 84-89.
- 総説-31: 子安増生 (1995). ニューメディアを授業に生かす. 『指導と評価』, **41(10)**, 15-18.
- 総説-32: 子安増生 (1996). 比喩の理解と「心の理論」. 『季刊 発達』, **17(66)**, 59-66.
- 総説-33: 子安増生 (1997). 小学生の〈心の理解〉に関する発達心理学的研究. 文部省科学研究費重点領域研究「認知・言語の成立」報告書 (全 74 ページ).
- 総説-34: 子安増生 (1997). 環境との相互作用の発達: 幼児期の「心の理論」の成長. 文部省科学研究費重点領域研究「認知・言語の成立」報告書 (全 84 ページ).
- 総説-35: 子安増生 (1997). 京都大学教官を対象とするティーチング・アシスタントに関する調査. 平成7年度教育研究学内特別経費研究報告書. pp. 1-17.
- 総説-36: 子安増生 (1998). 幼児期の〈他者の心〉のインタラクティブな理解過程の発達. 文部省科学研究費補助金特定領域研究 (A) 「心の発達: 認知的成長の機構」平成10年度年研究成果報告書. pp. 48-55.
- 総説-37: 子安増生 (1998). 子どもの〈心の理解〉の発生と成長. 文部省科学研究費重点領域研究(1) 「認知・言語の成立」報告書 II. pp. 42-59.

- 総説-38: 子安増生 (1999). 幼児期の〈他者の心〉のインタラクティブな理解過程の発達(2). 文部省科学研究費補助金特定領域研究 (A)「心の発達：認知的成長の機構」平成10年度研究成果報告書. pp. 39-44.
- 総説-39: 子安増生 (1999). 心理学の世界を開く鍵—『心理学辞典』を編集して. 『書齋の窓』, 7・8月号, 6-9.
- 総説-40: 子安増生 (1999). 人の気持ちを理解する力はどうか. 『児童心理』, **53(13)**, 11-16.
- 総説-41: 子安増生 (2000). 書評：市川伸一・和田秀樹共著「学力危機」河出書房新社. 『指導と評価』, **46 (1)**, 32.
- 総説-42: 子安増生 (2000). 幼児期の〈多者の心〉のインタラクティブな理解過程の発達 (3). 平成11年度特定領域研究 (A) 研究成果報告書「心の発達：認知的成長の機構」. pp. 42-49.
- 総説-43: 子安増生・林創 (2002). 囚人のジレンマ状況における対戦相手の種類と戦略による「心の帰属」の違い. 子安増生 (研究代表者)『創発的思考における再帰とアナロジーの機構の認知心理学的研究』. 平成11年度～13年度科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書. pp. 3-18.
- 総説-44: 西垣順子・子安増生 (2002). 小学校高学年児による登場人物の心の理解—包括的読解と局所的読解に及ぼす“心の理解”の効果. 子安増生 (研究代表者)『創発的思考における再帰とアナロジーの機構の認知心理学的研究』. 平成11年度～13年度科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書. pp. 19-32.
- 総説-45: 子安増生・羽野ゆつ子・金田茂裕 (2002). ライフコース理解過程における情報統合によるアナロジー・スキーマの変容. 子安増生『創発的思考における再帰とアナロジーの機構の認知心理学的研究』. 平成11年度～13年度科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書. pp. 33-94.
- 総説-46: 楠見 孝・子安増生 (2002). 広告の反復呈示が商品の知識と好感度の形成に及ぼす効果：知識および感性情報処理プロセスの認知心理学的検討. 吉田秀雄記念事業財団平成13年度：第35次助成研究報告 (全70頁).
- 総説-47: 楠見 孝・子安増生・中村飛鳥 (2002). 専門英語におけるマルチメディア・ネットワーク利用のもたらす効果：協調学習による対話・討論過程の分析. 科学研究費補助金特定領域研究 (A)「高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究」(研究代表者坂元昂) 研究成果報告書 (平成13年度計画研究). pp.47-50.
- 総説-48: 子安増生 (2003). 子どもの「心の理論」を育てる教育. 『教育展望』, **49 (5)**, 12-19.
- 総説-49: 子安増生 (2003). Opinion：思えばかなう. 『小児歯科臨床』, **8 (9)**, 5.
- 総説-50: 子安増生・市川伸一・森敏昭・無藤隆 (2003). 《座談会》現代教育の課題と教育心理学の役割 (上). 『書齋の窓』, **No.527**, 2-11.

- 総説-51 : 子安増生・市川伸一・森敏昭・無藤隆 (2003). 《座談会》現代教育の課題と教育心理学の役割 (下). 『書齋の窓』, **No.528**, 2-14.
- 総説-52 : 楠見孝・中本敬子・子安増生 (2006). 痛みの比喻表現の身体感覚と認知の構造. 子安増生『痛みの認知・表現・推測に関する認知科学的アプローチ』. 平成 15 年度～17 年度科学研究費萌芽研究 研究成果報告書. pp. 6-19.
- 総説-53 : Ando, H., & Koyasu, M. (2006). Differences between acting as if one is experiencing pain and acting as if one is pretending to have pain among actors at three expertise levels. 子安増生『痛みの認知・表現・推測に関する認知科学的アプローチ』. 平成 15 年度～17 年度科学研究費萌芽研究 研究成果報告書. pp. 20-43.
- 総説-54 : 子安増生・西村和雄・西村周三・楠見孝・菊池聡・藤村宣之・金田茂裕 (2006). 大学生の経済認識と態度の構造. 子安増生『かしこい市民をはぐくむ経済学教育の展開とその教育心理学的評価』. 平成 14 年度～17 年度科学研究費基盤研究 (B) 研究成果報告書. pp. 64-107.
- 総説-55 : 子安増生 (2008). 『経済心理学のすすめ』のすすめ. 『書齋の窓』, **No.572**, 21-25.
- 総説-56 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 1 他者視点の取得」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (8)**, p. 855.
- 総説-57 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 2 心の理論の獲得」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (9)**, p. 952.
- 総説-58 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 3 他者感情の推測」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (10)**, p. 1065.
- 総説-59 : 子安増生 (2008). 他者の心を「察する」心の発達. 『教育と医学』, **56 (9)**, 837-845.
- 総説-60 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 4 他者の痛み認知」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (11)**, p. 1193.
- 総説-61 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 5 実行機能の役割」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (12)**, p. 1281.
- 総説-62 : 子安増生 (2008). OT のための教養講座・発達心理学「その 6 描画による表現」. 『作業療法ジャーナル』, **42 (13)**, p. 1359.
- 総説-63 : 子安増生 (2009). 三つ子の魂、どんな魂?—幼児期の心の発達をさぐる. 『子ども学』 (甲南女子大学国際子ども学研究センター), **11**, 87-114.
- 総説-64 : 子安増生 (2009). 見過ごしていませんか? 思春期の準備期間. 『さんさい』, **5**, 8-11.
- 総説-65 : 子安増生 (2009). 今月の本棚 (Book Review) 三宅和夫・高橋恵子編著『縦断研究の挑戦—発達を理解するために』. 『児童心理』, **63(10)**, 140.
- 総説-66 : 子安増生 (2010). 母と子の行動管理: 心を読む心の発達. 『小児歯科臨床』, **15 (2)**, 12-19.
- 総説-67 : 子安増生 (2010). 新曜社との 40 年. 『新曜社総合図書目録』 40 周年記念号 (特



集 本というメディア). pp. 11-15.

総説一68:子安増生 (2011). 発達心理学への招待. 『心理学を学ぼう!』. 心理学書販売研究会. pp. 6-9.

総説一69:子安増生 (2012). 発達障害の理解と支援のために. 『LD, ADHD & ASD』, **41 (4)**, 6-7.

総説一70:子安増生 (2013). 認識するということ: 妄想と検証. 『世界思想』, **40**, 36-40.

総説一71:子安増生 (2013). 「心の理論」研究 30年の節目にあたって. 『季刊 発達』, **134**, 6-7.

総説一72:子安増生 (2013). 総論 いまなぜ「心の理論」を学ぶのか. 『季刊 発達』, **135**, 2-8.

総説一73:子安増生 (2013). 相手の心が「わかる力」の発達とそのつまずき—心の理論から. 『児童心理』, **67(13)**, 54-58.

総説一74:子安増生 (2015). 「心の理論」を学ぶ. 心販研編. 『心理学を学ぼう! 2.』. 心理学書販売研究会. pp. 2-5.

総説一75:子安増生 (2016). 心理学界の発展と公認心理師への期待. 『教育と医学』, **64 (4)**, 60-67.

#### 4. 翻 訳

翻訳一1: Brown, C. et al. (Eds.), (1975). *Psychology Today: An introduction*. New York: Random House. 子安増生・梅本堯夫訳, 2章 条件づけと学習 (pp. 45-95). 子安増生訳, 4章 思考と問題解決 (pp.153-206). 南博監訳・梅本堯夫訳, 『図説・現代の心理学 学習・記憶・思考』. 講談社. 1977.

翻訳一2: Gelman, R. (1979). Preschool thought. *American Psychologist*, **4**, 900-905. 子安増生訳, 就学前児の思考. 波多野誼余夫監訳, 『現代児童心理学 子どもの知的発達』, 金子書房. 1981, pp. 25-42.

翻訳一3: Gelman, R. (1982). Basic numerical abilities. In R. J. Sternberg (Ed.), *Advances in the psychology of human intelligence*. Vol. 1 (pp. 181-205). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. 子安増生訳, 数に関する基本的諸能力. 『サイコロジー』, 1983, **4**, 71-87.

翻訳一4: Sigel, I. & Cocking, R. (1977). *Cognitive development from childhood to adolescence: A constructivist perspective*. New York: Holt, Rinehart, & Winston. 子安増生訳, 『認知の発達: 乳児期から青年期まで』, サイエンス社. 1983. (全 291 ページ).

翻訳一5: Bennett, M. (Ed.). (1993). *The Child as Psychologist: An introduction to the development of social cognition*. London: Harvester Wheatsheaf. 子安増生訳, 2章 子どもの〈心の理解〉 (pp.44-88). 子安増生訳, 8章 発達する心理学 (pp. 254-265). 二宮克美・子安増生・渡辺弥生・首藤敏元訳, 『子どもは心理学者—〈心の理論〉の発達心理学』. 福村出版. 1995.

翻訳一6: Cox, M.V. (1992). *Children's drawings*. London: Penguin Books. コックス著・子安増

生訳、『子どもの絵と心の発達』。有斐閣。1999。(全318ページ)。

翻訳-7: Cohen, D. (2004). *Psychologists on psychology*. London: Hodder & Stoughton. コーエン著・子安増生監訳・三宅真季子訳, 『心理学者、心理学を語る』。新曜社。2008。(全504ページ)。

翻訳-8: Brown, B. B. & Prinstein, M. J. (Eds.). (2011). *Encyclopedia of Adolescence*, 3 vols. New York: Academic Press. 子安増生・二宮克美(監訳)。(2014)。青年期発達百科事典(全3冊)。丸善出版(全1,568ページ)。

## 5. 辞典・事典類

辞典類-1: 平山宗宏・安藤美紀夫・高野陽・田村健二・野村東助・深谷昌志・森上史朗・柚木馥編(1988)。『現代子ども大百科』, 中央法規出版。[「知能」「新しい知能理論」「知能の発達」「知能検査」「創造性」「創造性検査」「才能」「知的優秀児」(pp. 304-314)の9項目担当]。

辞典類-2: 国語教育研究所編(1988)。『国語教育研究大辞典』, 明治図書。[「ヴィゴツキー」(pp.64-65), 「思考」(pp. 419-420), 「パヴロフ」(p. 662)項目担当。]

辞典類-3: 細谷俊夫・奥田真丈・河野重男・今野喜清編(1990)。『新教育学大事典』第1巻, 第一法規。[「学習理論」(pp. 389-393)の1項目担当]。

辞典類-4: 奥田真丈・河野重男編(1993)。『現代学校教育学大事典』全7巻, ぎょうせい。[「探索的行動」「一般知能」「知的発達」「批判的思考」「概念学習」「概念形成」「拡散的思考, 収束的思考」「学習曲線」「学習理論」「知能」「TOTEモデル」の11項目担当]。

辞典類-5: 岡本夏木監修(1995)。『発達心理学辞典』, ミネルヴァ書房。[「暗黙知」「課題分析」「コンピュータ・シミュレーション」「コンポーネント・アプローチ」「才能」「思考課題」「实际的知能」「視点取得」「社会的知能」「知能」「知能研究」「天才」「発達検査」「ビネー」「マッピング」「類推」「ロゴ」の17項目担当]。

辞典類-6: 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁樹算男・立花政夫・箱田裕司編(1999)。『心理学辞典』。有斐閣。[「あざむき」「ヴィンセント曲線」「ヴォルフ」「エキスパート」「カウンターバランス」「城戸幡太郎」「教育調査」「教育評価」「鏡映書字」「クロンバック」「構成主義」「交絡」「コーホート」「コンポーネント・アプローチ」「佐藤幸治」「CAT」「シエマ」「シグモイド曲線」「自己教育力」「自己強化」「持続性」「実在論」「悉無曲線」「実用的知能」「社会化」「社会的知能」「主効果」「成長」「絶対評価/相対評価」「多重知能の理論」「タブラ・ラサ」「知能」「知能指数」「知能指数の恒常性」「知能の鼎立理論」「チューター」「適性」「テレビ・ゲーム」「到達度評価」「特殊因子」「能力心理学」「ブラインド・テスト」「文科系/理科系」「補償教育」「マキャヴェリの知能」「三

- つこの山問題」[矢田部達郎]「LOGO」の48項目担当].
- 辞典類-7: 久世敏雄・齋藤耕二監修 (2000). 『青年心理学事典』, 福村出版. [「認知的能力」「知能」「社会的知能」の3項目担当].
- 辞典類-8: 日本認知科学会編 (2002). 『認知科学辞典』. 共立出版. [「共有注意の機構」「計数の原理」「心の理論」「心の理論の機構」「ToBy」の5項目担当].
- 辞典類-9: 日本応用心理学会編 (2007). 『応用心理学事典』, 丸善. [「芸術理論」(pp. 598-599)の1項目担当].
- 辞典類-10: 日本発達心理学会編 (2013). 『発達心理学事典』, 丸善出版. [「心理学資格」(pp. 582-583)の1項目執筆; 「4. かんがえる」と「17. あらわす」の章の編集担当].
- 辞典類-11: 藤永保 (監修)、内田伸子・繁樹算男・杉山憲司 (責任編集) (2013). 『最新心理学事典』. 平凡社. [発達分野編集委員ならびに「芸術心理学」(p. 141)、「発達心理学」(pp. 621-622)、「発達段階」(pp. 624-625)の執筆担当].
- 辞典類-12: 岩波書店辞典編集部編 (2013). 『岩波 世界人名大辞典』(2分冊, 全 3,586ページ). 岩波書店. [サトウタツヤ氏と心理学の人名執筆担当].
- 辞典類-13: 岩波書店 (印刷中). 広辞苑 第七版 (「心理学」関係項目の編集と新項目追加).

## 6. 学会等発表

- 発表-1 (1974. 10. 広島大学): 那須光章・石井伸子・子安増生・末田啓二・南憲治 (1974). 両親の養育役割に対する子の認知と学業成績について. 日本心理学会第38回大会発表論文集, pp. 798-799.
- 発表-2 (1974. 10. 広島大学): 子安増生 (1974). 概念学習における仮説検証過程の発達の研究. 日本心理学会第38回大会発表論文集, pp. 1086-1087.
- 発表-3 (1975. 9. 東京都立大学): 子安増生 (1975). 概念学習における仮説検証過程の発達の研究 (II) —仮説消去と累積仮説消去の教示の効果—. 日本心理学会第39回大会発表論文集, p. 374.
- 発表-4 (1976. 9. 中京大学): 橘良治・子安増生 (1976). 達成動機づけとアナグラム課題での遂行の関係について: (1) 問題と方法. 日本心理学会第40回大会発表論文集, pp. 219-220.
- 発表-5 (1976. 9. 中京大学): 子安増生・橘良治 (1976). 達成動機づけとアナグラム課題での遂行の関係について: (2) 結果と考察. 日本心理学会第40回大会発表論文集, pp. 221-222.
- 発表-6 (1977. 10. 香川大学): 子安増生 (1977). 新訂京大NX5-8 知能検査の標準化の報告. 日本教育心理学会第19回総会発表論文集, pp. 744-745.
- 発表-7 (1978. 9. 横浜国立大学): 岩井勇児・鈴木眞雄・佐藤勝利・子安増生 (1978). 教員養成大学・学部教官の教育実習観: I—愛知教育大学教官の場合 (1)—. 日本教育

- 心理学会第20回総会発表論文集, pp. 590-591.
- 発表-8 (1978.9. 横浜国立大学): 鈴木眞雄・岩井勇児・佐藤勝利・子安増生 (1978). 教員養成大学・学部教官の教育実習観: II—愛知教育大学教官の場合(2)—. 日本教育心理学会第20回総会発表論文集, pp. 592-593.
- 発表-9 (1979.10. 金沢大学): 今栄国晴・岩井勇児・鈴木眞雄・佐藤勝利・子安増生 (1979). 教員養成大学・学部教官の教育実習観: III—教員養成重視派と軽視派の判別—. 日本教育心理学会第21回総会発表論文集, pp. 818-819.
- 発表-10 (1979.10. 金沢大学): 鈴木眞雄・子安増生・岩井勇児・今栄国晴・佐藤勝利 (1979). 教員養成大学・学部教官の教育実習観: IV—全国の教科教育・教職科目担当教官の場合(1)—. 日本教育心理学会第21回総会発表論文集, pp. 820-821.
- 発表-11 (1979.10. 金沢大学): 子安増生・鈴木眞雄・岩井勇児・今栄国晴・佐藤勝利 (1979). 教員養成大学・学部教官の教育実習観: V—全国の教科教育・職科目担当教官の場合(2)—. 日本教育心理学会第21回総会発表論文集, pp. 822-823.
- 発表-12 (1979.10. 金沢大学): 岩井勇児・佐藤勝利・今栄国晴・鈴木眞雄・子安増生 (1979). 教育実習に対する教師・学生の態度: VI—実習校教師の自由記述—. 日本教育心理学会第21回総会発表論文集, pp. 824-825.
- 発表-13 (1980.5. 金城学院大学): 多鹿秀継・今栄国晴・高橋超・子安増生 (1980). 矢作川流域住民の住民意識構造についての調査的研究(I)—調査目的・方法および矢作川に対する住民の親近感と信頼感—. 東海心理学会第29回大会研究発表抄録集, pp. 9-10.
- 発表-14 (1980.5. 金城学院大学): 子安増生・高橋超・多鹿秀継・今栄国晴 (1980). 矢作川流域住民の住民意識構造についての調査的研究(II)—水質保全と水資源保護に関する態度—. 東海心理学会第29回大会研究発表抄録集, pp. 10-11.
- 発表-15 (1980.5. 金城学院大学): 高橋超・今栄国晴・多鹿秀継・子安増生 (1980). 矢作川流域住民の住民意識構造についての調査的研究(III)—流域住民の地域に対する意識構造—. 東海心理学会第29回大会研究発表抄録集, pp. 11-12.
- 発表-16 (1981.9. 日本女子大学): 日本心理学会第45回大会シンポジウム「達成動機づけの諸問題」指定討論者. 日本心理学会第45回大会発表論文集, S95-S100.
- 発表-17 (1982.5. 名城大学): 子安増生・今栄国晴・高橋超・多鹿秀継 (1982). 東海地方の川と水資源に対する住民の態度—矢作川と木曾川の比較—. 東海心理学会第31回大会研究発表抄録集, p. 21.
- 発表-18 (1983.9. 早稲田大学): 子安増生 (1983). 幼児の視点の自己中心性について. 日本心理学会第47回大会発表論文集, p. 470.
- 発表-19 (1984.9. 京都大学): 子安増生 (1984). 知能検査のコンピュータ化に関する基礎開発的研究—京大NX15- 知能検査を素材として—. 日本教育心理学会第26回総会発表論文集, pp. 414-415.

- 発表-20 (1984. 10. 大阪大学) : 子安増生 (1984). 含意理解の促進要因としての「現実的条件」の効果の再検討—問題の現実性についての評定値との関連性. 日本心理学会第 48 回大会発表論文集, p. 456.
- 発表-21 (1985. 7. 日本大学) : 子安増生 (1985). 幼児の速度認知に関する実験的研究. 日本心理学会第 49 回大会発表論文集, p. 412.
- 発表-22 (1985. 9. 国立教育研究所) : 子安増生 (1985). メタファの効果的表現と婉曲的表現に関する実験的研究. 日本教育心理学会第 27 回総会発表論文集, pp. 624-625.
- 発表-23 (1986. 10. 九州大学) : 子安増生 (1986). 子どものコンピュータ・リテラシーの教育—5 歳児の 6 カ月間の LOGO 学習過程—. 日本教育心理学会第 28 回総会発表論文集, pp. 620-621.
- 発表-24 (1986. 10. 九州大学) : 日本教育心理学会第 28 回総会自主シンポジウム「分類行動の原理とその発達」指定討論者. 日本教育心理学会第 28 回総会発表論文集, S26-S27.
- 発表-25 (1987. 7. 京王プラザホテル) : Koyasu, M. (1987). Spatial egocentrism in young children: Understanding of the right-left relationship. The 9th Biennial ISSBD Meeting (The International Society for the Study of Behavioural Development). July 12-16, 1987, Tokyo, Japan. Abstracts Poster presentations, p. 19.
- 発表-26 (1987. 10. 東京学芸大学) : 子安増生 (1987). 女子大学生の自己の姓名に関する意識調査. 日本教育心理学会第 29 回総会発表論文集, pp. 236-237.
- 発表-27 (1987. 10. 東京学芸大学) : 日本教育心理学会第 29 回総会自主シンポジウム「比喩理解とその発達」企画司会者. 日本教育心理学会第 29 回総会発表論文集, S58-S59.
- 発表-28 (1988. 10. 広島大学) : 日本心理学会第 52 回大会シンポジウム「Social Intelligence をめぐって」話題提供者: 「社会的有能性」測定の意義と可能性—教育心理学から—. 日本心理学会第 52 回大会発表論文集, S20.
- 発表-29 (1989. 7. 北海道大学) : 日本教育心理学会第 31 回総会自主シンポジウム「発達研究における神経心理学の役割」話題提供者. 日本教育心理学会第 31 回総会発表論文集, S9.
- 発表-30 (1989. 11. 和歌山大学) : 関西心理学会第 101 回大会シンポジウム「心理学の未来」助言者.
- 発表-31 (1989. 11. 筑波大学) : 子安増生・坂野登・伊田行秀 (1989). 思索・芸術家型認知様式と職業適性—1) 予備校生の進路選択との関連性—. 日本心理学会第 52 回大会発表論文集, p. 429.
- 発表-32 (1989. 11. 筑波大学) : 坂野登・子安増生・伊田行秀 (1989). 思索・芸術家型認知様式と職業適性—2) 予備校生での因子分析的検討—. 日本心理学会第 52 回大会発表論文集, p. 430.

- 発表-33 (1989. 11. 筑波大学) : 伊田行秀・坂野登・子安増生 (1989). 思索・芸術家型認知様式と職業適性—3) 短大生での検討—. 日本心理学会第 52 回大会発表論文集, p. 431.
- 発表-34 (1990. 3. 白百合女子大学) : 子安増生 (1990). ビデオ・フィードバックによる幼児の空間的自己中心性の脱中心化過程に関する研究. 日本発達心理学会第 1 回大会発表論文集, p. 76.
- 発表-35 (1990. 3. 白百合女子大学) : 日本発達心理学会第 1 回大会ラウンドテーブル「空間認知発達研究における「3つの山」課題の意義について」話題提供者. 日本発達心理学会第 1 回大会発表論文集, p. 42.
- 発表-36 (1990. 10. 大阪大学) : 子安増生・菊池聡・谷口高士 (1990). テレビのコマーシャル・フィルムにおけるメタファー表現の認知心理学的研究 : I. 研究方法と商品名の分析. 日本教育心理学会第 32 回総会発表論文集, p. 322.
- 発表-37 (1990. 10. 大阪大学) : 菊池聡・子安増生・谷口高士 (1990). テレビのコマーシャル・フィルムにおけるメタファー表現の認知心理学的研究 : II. 3 種のメタファーの分析. 日本教育心理学会第 32 回総会発表論文集, p. 323.
- 発表-38 (1991. 3. お茶の水女子大学) : 日本発達心理学会第 2 回大会シンポジウム「認知発達研究の課題と展望」話題提供者. 日本発達心理学会第 2 回大会発表論文集, p. 4.
- 発表-39 (1992. 3. 兵庫教育大学) : 日本発達心理学会第 3 回大会ラウンドテーブル「テレビ、ビデオゲーム、CAI をめぐって」指定討論者. 日本発達心理学会第 3 回大会発表論文集, p. 30.
- 発表-40 (1992. 9. 同志社大学) : 日本心理学会第 56 回大会ワークショップ「子どもとコンピュータ (2) : 子どもとコンピュータの理想的な関係を問う」話題提供者. 日本心理学会第 56 回大会発表論文集, (42).
- 発表-41 (1993. 3. 横浜国立大学) : 日本発達心理学会第 4 回大会ミニシンポジウム「心の理論」研究は何を明らかにするか?」企画・司会者. 日本発達心理学会第 4 回大会発表論文集, p. 61.
- 発表-42 (1993. 10. 名古屋大学) : 日本教育心理学会第 35 回総会研究委員会企画シンポジウム「教育心理学研究における遺伝学の役割」企画・司会者. 日本教育心理学会第 35 回総会発表論文集, S6-S9. (『教育心理学年報』第 33 集, 1994 年, pp.17-20).
- 発表-43 (1995. 3. 同志社大学) : 日本発達心理学会第 6 回大会ミニシンポジウム「ピアジェ保存課題は何を問っているのか?」指定討論者. 日本発達心理学会第 6 回大会発表論文集, S15.
- 発表-44 (1995. 3. 同志社大学) : 日本発達心理学会第 6 回大会ミニシンポジウム「子どもにおける環境のリアリティについて」司会者. 日本発達心理学会第 6 回大会発表論文集, S19.

- 発表-45 (1995. 3. 同志社大学) : 日本発達心理学会第 6 回大会ラウンドテーブル「空間認知と心のはたらき」企画協力者. 日本発達心理学会第 6 回大会発表論文集, S31.
- 発表-46 (1995. 3. 同志社大学) : 子安増生・服部敬子 (1995). 幼児の「心の理論」と交代行動の発達 (1) . 日本発達心理学会第 6 回大会発表論文集, p. 150.
- 発表-47 (1995. 11. 大阪学院大学) : 川村康文・子安増生 (1995). 放物運動の学習におけるコンピュータ・シミュレーションの先行オーガナイザ的利用. 関西心理学会第 107 回大会発表論文集, p.38.
- 発表-48 (1996. 11. 筑波大学) : 日本教育心理学会第 38 回総会準備委員会企画シンポジウム「心の理論」は自閉症の診断と教育にどのように貢献しうるか」企画・司会者. 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, S38-S39.
- 発表-49 (1996. 11. 筑波大学) : 許佳美・子安増生 (1996). 幼児の「心の理論」の発達ときょうだい数および親の養育態度との関係—中・日比較調査. 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, p. 138.
- 発表-50 (1996. 11. 筑波大学) : 子安増生・坂本美紀・服部敬子・松田千都・郷式徹・許佳美 (1996). 心の表象的理解：自己，他者，写真の比較 (I) —物のアイデンティティ変化条件での検討. 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, p. 160.
- 発表-51 (1996. 11. 筑波大学) : 郷式徹・子安増生・坂本美紀・服部敬子・松田千都・許佳美 (1996). 心の表象的理解：自己，他者，写真の比較 (II) —物の位置変化条件での検討. 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, p. 161.
- 発表-52 (1996. 11. 筑波大学) : 川村康文・子安増生 (1996). 力学法則における高校生の素朴概念を変容させるための実験演示法の開発. 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, p. 352.
- 発表-53 (1997. 3. 大阪大学) : 日本発達心理学会第 8 回大会ラウンドテーブル「文脈の認知と障害〈発達障害分科会主催〉」企画協力者. 日本発達心理学会第 8 回大会発表論文集, S28.
- 発表-54 (1997. 3. 大阪大学) : 子安増生・西垣順子・服部敬子 (1997). 絵本形式による児童期の「心の理論」の調査. 日本発達心理学会第 8 回大会発表論文集, p. 136.
- 発表-55 (1998. 10. 東京学芸大学) : 子安増生・郷式徹・服部敬子 (1998). 縦割り保育の幼稚園における幼児の相互交渉と〈心の理解〉の発達 (2) 心的表現. 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, p. 196.
- 発表-56 (1998. 10. 東京学芸大学) : 日本心理学会第 62 回大会ラウンドテーブル「ザッピングについて考える」指定討論者. 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, (62).
- 発表-57 (1998. 10. 東京学芸大学) : 日本心理学会第 62 回大会シンポジウム：日本動物心理学会・日本発達心理学会共同企画「社会的知性の進化と『心の理論』」話題提供者. 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, S42.
- 発表-58 (1999. 3. 大阪学院大学) : 日本発達心理学会第 10 回大会自主シンポジウム「コミ

- コミュニケーションの視点から見た「心の理論」話題提供. 日本発達心理学会第 10 回大会発表論文集, p. 84.
- 発表-59 (1999. 3. 大阪学院大学): 子安増生・服部敬子・郷式徹 (1999). 縦割り保育の幼稚園における幼児の相互交渉と〈心の理解〉の発達 (3) 「心の理論」課題と発達検査との関連性. 日本発達心理学会第 10 回大会発表論文集, p. 295.
- 発表-60 (1999. 3. 大阪学院大学): 日本発達心理学会第 10 回大会公開シンポジウム「発達研究におけるコネクショニスト・モデルの可能性」企画・司会者. 日本発達心理学会第 10 回大会発表論文集, p. 79.
- 発表-61 (2000. 7. ストックホルム市会議場, スウェーデン): Koyasu, M. (2000). Understanding representations of self, other person, and photograph in young children. Poster presented at the 27th International Congress of Psychology, July 23-28, 2000, City Conference Centre, Stockholm, Sweden.
- 発表-62 (2000. 9. 東京大学): 日本教育心理学会第 42 回総会準備委員会企画シンポジウム「教育心理学における方法論の展開」指定討論者. 日本教育心理学会第 42 回総会発表論文集, S4-S5.
- 発表-63 (2000. 9. 東京大学): 日本教育心理学会第 42 回総会準備委員会企画シンポジウム「教育心理学から見た「学力低下」問題」話題提供者. 日本教育心理学会第 42 回総会発表論文集, S10-S11.
- 発表-64 (2000. 9. 東京大学): 子安増生・郷式徹・服部敬子 (2000). 縦割り保育の幼稚園における幼児の相互交渉と〈心の理解〉の発達 (4): 事例分析. 日本教育心理学会第 42 回総会発表論文集, p. 642.
- 発表-65 (2000. 9. 静岡大学): 日本特殊教育学会第 38 回大会自主シンポジウム「「心」へのアプローチ: 障害理解と援助のための基礎を探る」話題提供者. 日本特殊教育学会第 38 回大会プログラム, p. 42.
- 発表-66 (2000. 11. 京都大学): 日本心理学会第 64 回大会シンポジウム「クオリアを感じる心: 心的体験のリアリティとコミュニケーション可能性」企画者. 日本心理学会第 64 回大会発表論文集, S11.
- 発表-67 (2001. 6. 公立はこだて未来大学): 林創・子安増生 (2001). 「囚人のジレンマ」状況における相手の戦略に対する感じ方. 日本認知科学会第 18 回大会発表論文集, p. 186.
- 発表-68 (2001. 7. バービカン・センター, 連合王国): Koyasu, M., Goushiki, T., & Nakamura, M. (2001). Optimizing information literacy education for the university first-year course. Poster presented at the 7th European Congress of Psychology. 1-6 July, The Barbican Centre, London, UK. Book of abstracts, p. 160.
- 発表-69 (2001. 9. 愛知教育大学・名古屋国際会議場): 日本教育心理学会第 43 回総会研究委員会企画シンポジウム「知能検査の新しい活用」企画者. 日本教育心理学会第



43 回総会発表論文集, S20.

- 発表-70 (2001.9. 愛知教育大学・名古屋国際会議場): 日本教育心理学会第 43 回総会自主シンポジウム「知的リアリズム再考—21 世紀の新しい描画発達研究に向けて—」指定討論者. 日本教育心理学会第 43 回総会発表論文集, S94.
- 発表-71 (2001. 9. 愛知教育大学・名古屋国際会議場): 子安増生・郷式徹・服部敬子 (2000). 縦割り保育の幼稚園における幼児の相互交渉と〈心の理解〉の発達 (5): 数量的分析. 日本教育心理学会第 43 回総会発表論文集, p. 412.
- 発表-72 (2001. 11. 筑波大学): 日本心理学会第 65 回大会ワークショップ「より有意義な在外研究生生活をめざして: 在外研究の経験を持つ心理学者に対する質問紙調査から」指定討論者. 日本心理学会第 65 回大会発表論文集, S38.
- 発表-73 (2001. 11. 筑波大学): 子安増生・鈴木亜由美 (2001). 幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達. 日本心理学会第 65 回大会発表論文集, p. 617.
- 発表-74 (2002. 3. 早稲田大学): 平沼博将・子安増生 (2002). 児童の人物描画における年齢、性、国籍の特徴抽出手がかりに関する研究 (1) —カテゴリー一致得点による分析から—. 日本発達心理学会第 13 回大会発表論文集, p. 57.
- 発表-75 (2002. 6. 北陸先端科学技術大学院大学): 安藤花恵・子安増生 (2002). 演劇経験の有無による味覚表情の表出ならびに演技の差異. 日本認知科学会第 19 回大会発表論文集, p. 272.
- 発表-76 (2002. 9. 広島大学): 羽野ゆつ子・子安増生・金田茂裕 (2002). ライフコース理解過程における情報統合によるアナロジー・スキーマの変容. 日本心理学会第 66 回大会発表論文集, p. 828.
- 発表-77 (2002. 9. 広島大学): 西垣順子・子安増生 (2002). 小学校高学年児による物語登場人物の心の理解—包括的読解と局所的読解に及ぼす“心の理解”の効果. 日本心理学会第 66 回大会発表論文集, p. 1008.
- 発表-78 (2002. 9. 広島大学): 鈴木亜由美・子安増生・安寧 (2002). 幼児の対人葛藤場面における意図の理解と社会的問題解決能力の発達—「心の理論」との関連から—. 日本心理学会第 66 回大会発表論文集, p. 1010.
- 発表-79 (2002. 10. 熊本大学): 日本教育心理学会第 44 回総会研究委員会企画シンポジウム「発達・教育研究の課題と挑戦—波多野完治先生記念シンポジウム」企画者. 日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集, S16-S17.
- 発表-80 (2002. 10. 熊本大学): 平沼博将・子安増生 (2002). 児童の人物描画における年齢、性、国籍の特徴抽出手がかりに関する研究 (2) —判断理由の分析から—. 日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集, p. 482.
- 発表-81 (2002. 11. 一橋大学): 楠見孝・子安増生・松田 憲・安藤花恵・杉森絵里子・平岡齊士 (2002). テレビ CM の情報タイプによる単純接触効果. 日本社会心理学会第 43 回大会発表論文集, pp. 122-123.

- 発表-82 (2003. 3. 兵庫教育大学) : 鈴木亜由美・子安増生 (2003). 幼児の自己調整機能と「心の理論」の発達. 日本発達心理学会第 14 回大会発表論文集, p. 260.
- 発表-83 (2003. 7. ウィーン工科大学, オーストリア) : Koyasu, M., Goushiki, T., & Hattori, K. (2003). A longitudinal study of "theory of mind" and its related abilities in a mixed kindergarten class. Poster presented at the 8th European Congress of Psychology. July 6-11, Vienna University of Technology, Vienna, Austria. Abstracts, p. 227.
- 発表-84 (2003. 8. 大阪教育大学・大阪国際会議場) : 日本教育心理学会第 45 回総会研究委員会企画シンポジウム「いま, 何を教育すべきか—ビジネス界からの提言—」企画者・指定討論者. 日本教育心理学会第 45 回総会発表論文集, S2.
- 発表-85 (2003. 9. 東京大学) : 日本心理学会第 67 回大会ワークショップ「自己・他者・前頭前野内側部」指定討論者. 日本心理学会第 67 回大会発表論文集, S65.
- 発表-86 (2003. 9. 東京大学) : 橋本京子・子安増生 (2003). 大学への進学動機、自己に対するポジティブな信念、および大学生活におけるストレスに対する認知の関係. 日本心理学会第 67 回大会発表論文集, p. 179.
- 発表-87 (2003. 9. 東京大学) : 龍輪飛鳥・子安増生 (2003). 運動図形の種類、運動パターン、速度が心的状態の付与に及ぼす効果. 日本心理学会第 67 回大会発表論文集, p. 684.
- 発表-88 (2003. 11. 大阪樟蔭女子大学) : 日本乳幼児教育学会第 13 回大会企画シンポジウム「子どもの共感はいかに育つか」指定討論. 日本乳幼児教育学会第 13 回大会研究発表論文集, pp. 24-25.
- 発表-89 (2004. 3. 白百合女子大学) : 日本発達心理学会第 15 回大会研究交流委員会・京都大学 21 世紀 COE 心理学連合共催シンポジウム「乳児研究は発達心理学に何をもたらすか」企画・指定討論. 日本発達心理学会第 15 回大会発表論文集, S30-S33.
- 発表-90 (2004. 3. 白百合女子大学) : 日本発達心理学会第 15 回大会ラウンドテーブル「空間認知発達のミッシングリンクを求めて」企画. 日本発達心理学会第 15 回大会発表論文集, S145.
- 発表-91 (2004. 7. ポンペウ・ファブラ大学, スペイン) : Koyasu, M. (2004). Development of "theory of mind" in young children: A comparison between mental representation and photographic representations. Poster presented at the 1st Joint Conference of the Society for Philosophy & Psychology and the European Society for Philosophy & Psychology, July 3-6, 2004, Pompeu Fabra University, Barcelona, Spain.
- 発表-92 (2004. 7. ゲント市国際会議場, ベルギー) : Koyasu, M., & Goushiki, T. (2004). A longitudinal study of "theory of mind" and its related abilities in a mixed kindergarten class. Poster presented at the 18th Biennial ISSBD Meeting. July 11-15, Congress Centre, Ghent, Belgium. Programme & Abstracts, p. 291.
- 発表-93 (2004. 7. 東京, 日本科学未来館) : 楠見孝・中本敬子・子安増生 (2004). 痛みの

- 比喩表現を支える身体感覚と形容語・擬態語の構造. 第21回日本認知科学学会大会  
発表論文集, pp. 54-55.
- 発表-94 (2004. 9. 京都大学): 楠見孝・子安増生・竹中文良・大井賢一・吉田みつ子 (2004).  
仮想空間を利用したがん患者グループへのメンタルサポート. 日本バーチャルリ  
アリティ学会第9回大会, p. 585.
- 発表-95 (2004. 9. 関西大学): 日本心理学会第68回大会シンポジウム「臨床の「知」・統  
計の「知」・教育の「知」」話題提供者. 日本心理学会第68回大会発表論文集, S10.
- 発表-96 (2004. 9. 関西大学): 日本心理学会第68回大会ワークショップ「心理学の新しい  
かたち—心理学のアカウントビリティをめぐって」話題提供者. 日本心理学会第  
68回大会発表論文集, W18.
- 発表-97 (2004. 9. 関西大学): 楠見孝・子安増生・金田茂裕・菊池聡・藤村宣之 (2004). 大  
学生の経済認識と態度の構造—情報接触が経済リスク志向, 税意識, 企業観, 教  
育観に及ぼす効果—. 日本心理学会第68回大会発表論文集, p. 139.
- 発表-98 (2005. 3. 神戸大学・神戸国際会議場): 日本発達心理学会第16回大会シンポジウ  
ム「認知発達理論の最前線」指定討論者. 日本発達心理学会第16回大会発表論文  
集, pp. 206-211.
- 発表-99 (2005. 7. グラナダ国際会議場, スペイン): Koyasu, M. & Tatsuwa, A. (2005). Effects  
of figure type and movement pattern on attributing mental states to moving objects. Poster  
presented at the 9th European Congress of Psychology. July 3-7, Congress Center,  
Granada, Spain. p. 196.
- 発表-100 (2005. 7. 京都大学): 安藤花恵・子安増生 (2005). 俳優の熟達度による痛みの演  
技の差異. 日本認知科学学会第22回大会発表論文集, pp. 22-23.
- 発表-101 (2005. 8. ライデン大学, オランダ): Koyasu, M. & Tatsuwa, A. (2005). Effects of  
types of figures and patterns of movement on attributing mental states to moving figures.  
Poster presented at the 14th Conference of the European Society for Cognitive Psychology.  
August 31- September 3, Conference Centre, Leiden, the Netherlands. p. 93.
- 発表-102 (2005. 9. 慶應義塾大学): 日本心理学会第69回大会ワークショップ: 「間主観性  
の認知神経科学」指定討論者. 日本心理学会第69回大会発表論文集, W53.
- 発表-103 (2005. 9. 慶應義塾大学): 安藤花恵・子安増生 (2005). 演劇俳優が立つつの視点  
の演劇熟達度による差異—痛みの演技計画および演技遂行の各段階からの分析.  
日本心理学会第69回大会発表論文集, p. 782.
- 発表-104 (2006. 3. 九州大学): 小川絢子・子安増生 (2006). 幼児期における「心の理論」  
と実行機能の関連性. 日本発達心理学会第17回大会発表論文集, p. 240.
- 発表-105 (2006. 3. 九州大学): 子安増生・郷式徹 (2006). 2歳児の描画発達と養育環境の  
関連性. 日本発達心理学会第17回大会発表論文集, p. 580.
- 発表-106 (2006. 7. カールトン・クレスト・ホテル, オーストラリア): Koyasu, M. & Goushiki,

- T. (2006). Two-year olds' drawings and their rearing conditions. Poster presented at the 19th Biennial ISSBD Meeting. July 1-6, Carlton Crest Hotel, Melbourne, Australia.
- 発表-107 (2006. 9. 岡山大学) : 子安増生・郷式徹 (2006). 2歳児の描画発達と養育環境の関連性. 日本教育心理学会第48回総会発表論文集, p. 22.
- 発表-108 (2006. 11. 九州大学) : 小講演 : 安藤花恵「演劇俳優の熟達化に及ぼす役・俳優・観客の視点の役割—演劇心理学事始—」. 司会者. 日本心理学会第70回大会論文集, L15.
- 発表-109 (2007. 3. 埼玉大学) : 日本発達心理学会第18回大会シンポジウム「理論」説 (Theory Theory) の現在と将来展望」話題提供者. 日本発達心理学会第18回大会論文集, pp. 172-173.
- 発表-110 (2007. 3. 埼玉大学) : 日本発達心理学会第18回大会ラウンドテーブル「心の理論」の獲得と実行機能の発達: (1) 実行機能の課題の検討」企画・司会. 日本発達心理学会第18回大会論文集, p. 206.
- 発表-111 (2007. 3. 埼玉大学) : 子安増生・郷式徹 (2007). なぐり描きから人物画への発達に及ぼすメディアの影響. 日本発達心理学会第18回大会論文集, p. 617.
- 発表-112 (2007. 5. 大阪学院大学) : 日本感情心理学会第15回大会オムニバス講演「進化と発達から感情を考える」話題提供. 日本感情心理学会第15回大会プログラム・予稿集, pp. 10-12.
- 発表-113 (2007. 5. ホテル・クラスナポルスキー, オランダ) : Koyasu, M. (2007). Young children's development of understanding others' mind: From perspective-taking to theory of mind. Paper presented at the 37th Annual Meeting of the Jean Piaget Society. May 30-June 2, NH Grand Hotel Krasnapolsky, Amsterdam, the Netherlands. pp. 25-27.
- 発表-114 (2007. 7. プラハ市国際会議場, チェコ) : Koyasu, M. & Goushiki, T. (2007). Influences of viewing mass media on three-year olds' human figure drawings. Poster presented at the 10th European Congress of Psychology. July 3-6, the Prague Congress Centre, Prague, the Czech Republic. Programme, p. 107.
- 発表-115 (2007. 8. フリードリッヒ・シラー大学イェーナ, ドイツ) : Mizokawa, A. & Koyasu, M. (2007). Young children's understanding of another's apparent crying. Poster presented at the 13th European Conference of Developmental Psychology. August 20-25, Friedrich Schiller University, Jena, Germany. Programme, p. 63.
- 発表-116 (2007. 9. 東洋大学) : 小講演 : 林創「社会的な認識を支える二次の心的状態の理解の発達」. 司会者. 日本心理学会第71回大会論文集, L16.
- 発表-117 (2007. 9. 東洋大学) : 日本心理学会第71回大会ワークショップ : 「心の理論」の文化的多様性」指定討論者. 日本心理学会第71回大会発表論文集, W2.
- 発表-118 (2007. 9. 東洋大学) : 溝川藍・子安増生 (2007). 幼児期における他者の見かけの泣きの理解—心の理論との関連—. 日本心理学会第71回大会論文集, p. 1069.

- 発表-119 (2008. 3. 追手門学院大学・大阪国際会議場) : 日本発達心理学会第 19 回大会特別企画講演 : マルタ・ヒル＝ラクルス教授「WHO-QOL 尺度—知覚される生活の質への実証的アプローチ (WHO-QOL: An empirical approach to the quality of life perceived)」司会. 日本発達心理学会第 19 回大会論文集, p. 112.
- 発表-120 (2008. 3. 追手門学院大学・大阪国際会議場) : 日本発達心理学会第 19 回大会シンポジウム「心の理論」と実行機能の発達 (2) —日常生活場面の観察データから問う」企画者. 日本発達心理学会第 19 回大会論文集, pp.152-153.
- 発表-121 (2008. 3. 追手門学院大学・大阪国際会議場) : 溝川藍・子安増生 (2008). 児童期における見かけの泣きの発達—二次的誤信念の理解との関連—. 日本発達心理学会第 19 回大会論文集, p.714.
- 発表-122 (2008. 7. ヴュルツブルク市国際会議場, ドイツ) : Mizokawa, A. & Koyasu, M. (2008). Children's understanding of false belief about apparent crying: Association with the acquisition of recursive thought. Poster presented at the 20th Biennial ISSBD Meeting. July 13-17, The Congress Centre Würzburg, Würzburg, Germany. Programme, p. 101.
- 発表-123 (2008. 9. 同志社大学) : 龍輪飛鳥・子安増生 (2008). ボール探し課題における運動図形の一時停止・速度・軌跡が心的帰属に及ぼす効果. 日本認知科学会第 25 回大会発表論文集, pp. 82-83.
- 発表-124 (2008. 9. 北海道大学) : 子安増生・郷式徹 (2008). 4 歳児の男女人物画の発達とメディアの影響. 日本心理学会第 72 回大会発表論文集, p.1105.
- 発表-125 (2008.10. 東京学芸大学) : 小川絢子・子安増生 (2008). 幼児期における他者の誤った行動に対する理由づけと実行機能との関連性. 日本教育心理学会第 50 回総会発表論文集, p. 599.
- 発表-126 (2009. 3. 京都大学) : 第 15 回大学研究フォーラム (京都大学高等教育研究開発推進センター主催)・ラウンドテーブル企画「批判的思考力の育成のための教育実践と認知的基礎」: 司会者.
- 発表-127 (2009. 3. 日本女子大学) : 日本発達心理学会第 20 回大会日本臨床発達心理士会企画シンポジウム「臨床発達心理学」の構築に向けて」指定討論者. 日本発達心理学会第 20 回大会論文集, pp. 116-117.
- 発表-128 (2009. 3. 日本女子大学) : 日本発達心理学会第 20 回大会日本発達心理学会第 20 回大会記念シンポジウム「日本発達心理学会の、世界そして他分野との交流を模索」指定討論者. 日本発達心理学会第 20 回大会論文集, pp. 114-115.
- 発表-129 (2009. 3. 日本女子大学) : 日本発達心理学会第 20 回大会自主シンポジウム「心の理論」と実行機能の発達 (3) —障害児における関連を問う」企画者. 日本発達心理学会第 20 回大会論文集, pp. 42-43.
- 発表-130 (2009. 3. 日本女子大学) : 小川絢子・子安増生 (2009). 幼児期における「心の理論」とワーキングメモリの関連—不意移動ストーリーの語りなおしに着目して.

- 日本発達心理学会第20回大会論文集, pp. 598.
- 発表-131 (2009. 7. オスロ市国際会議場, ノルウェー) : Koyasu, M. & Goushiki, T. (2009). Influences of viewing mass media on five-year olds' human figure drawings. Poster presented at the 11th European Congress of Psychology. July 6-10, Oslo Congress Centre, Oslo, Kingdom of Norway. Programme, p. 60.
- 発表-132 (2009. 8. ミコラス・ロメリス大学, リトアニア) : Ogawa, A., & Koyasu, M. (2009). Relationships between Japanese children's theory of mind and executive function: The effect of child's narration of the false-belief story. Poster presented at the 14th European Conference of Developmental Psychology. August 18-22, Mykolas Romeris University. Vilnius, Lithuania. Programme, p. 89.
- 発表-133 (2009. 8. 立命館大学) : 日本心理学会第73回大会ワークショップ : 「質的データをどう扱うか?」 指定討論者. 日本心理学会第73回大会発表論文集, WS (1).
- 発表-134 (2009. 8. 立命館大学) : 橋本京子・子安増生 (2009). 楽観性とポジティブ志向および幸福感の関係について. 日本心理学会第73回大会発表論文集, p. 99.
- 発表-135 (2009. 8. 立命館大学) : 日本心理学会第73回大会ワークショップ : 「人間発達における連続性 vs 非連続性—発達のダイナミクスをとらえる—」 話題提供者. 日本心理学会第7回大会発表論文集, S (12).
- 発表-136 (2009. 8. 立命館大学) : 日本心理学会第73回大会グローバル COE 共催シンポジウム : 「心に関する全日本ネットワークの構築」 話題提供者. 日本心理学会第73回大会発表論文集, S (20).
- 発表-137 (2009. 9. 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス) : 安藤花恵・子安増生 (2009). 演劇俳優の練習中の様子の観察—観察から見える熟達化と今後の研究への提言. 日本認知科学会第26回大会発表論文集, pp. 12-13.
- 発表-138 (2010. 3. 神戸国際会議場) : 日本発達心理学会第21回大会・日本発達心理学会出版企画委員会主催シンポジウム「時間から人間の発達を考える」企画・司会者. 日本発達心理学会第21回大会論文集, p. 147.
- 発表-139 (2010. 3. 神戸国際会議場) : 日本発達心理学会第21回大会自主シンポジウム「心の理論」と実行機能の発達 (4) —研究の展開の可能性」 企画者. 日本発達心理学会第21回大会論文集, pp. 20-21.
- 発表-140 (2010. 3. 神戸国際会議場) : 日本発達心理学会第21回大会・日本臨床発達心理士会・日本臨床発達心理士会関西支部会共催シンポジウム「臨床発達心理士」の構築に向けて (2) —「個への支援、関係への支援」をめぐって— 話題提供者. 日本発達心理学会第21回大会論文集, pp. 152-155.
- 発表-141 (2010. 7. ニューサウスウェールズ大学, オーストラリア) : Koyasu, M. (2010). How much can we foster university students' ability to think critically by reading psychological papers critically? Poster presented at the 4th International Conference on Psychology

- Education (ICOPE). July 8-11, University of New South Wales, Sydney, Australia.
- 発表-142 (2010. 8. 早稲田大学) : 楠見孝・子安増生・道田泰司・林創・平山るみ・田中優子 (2010). ジェネリックスキルとしての批判的思考力テストの開発. 日本教育心理学会第 52 回大会発表論文集, p. 661.
- 発表-143 (2010. 9. ロンドン大学ゴールドスミス校, 英国) : Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2010). Young children's moral judgment on pretend crying: Its relationship to mental state understanding. Poster presented at the BPS Developmental Psychology Section Conference 2010. 12-15 September, Goldsmiths, University of London, London, England.
- 発表-144 (2010. 9. ロンドン大学ゴールドスミス校, 英国) : Bremner, G., & Koyasu, M. (2010). International Symposium on Social Cognitive Development. Organiser and Chairperson. BPS Developmental Psychology Section Conference 2010. 12-15 September, Goldsmiths, University of London, London, England.
- 発表-145 (2010. 9. 大阪大学) : 橋本京子・子安増生 (2010). 楽観性とポジティブ志向および幸福感の関係について (2). 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, p. 8.
- 発表-146 (2010. 9. 大阪大学) : 日本心理学会第 74 回大会・グローバル COE 共催シンポジウム : 「心の科学の再構築に向けて」指定討論者. 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, S (19).
- 発表-147 (2011. 3. 東京学芸大学) : 溝川藍・子安増生 (2011). 幼児の嘘泣きに関する道徳判断—心的状態の理解との関連. 日本発達心理学会第 22 回大会発表論文集, p. 141.
- 発表-148 (2011. 3. 東京学芸大学) : 英国心理学会発達部門「国際協力賞」受賞者講演 (Dr Rachel Wu). 企画者. 日本発達心理学会第 22 回大会論文集, pp. 124-125.
- 発表-149 (2011. 3. 東京学芸大学) : 日本発達心理学会主催シンポジウム : 「脳・自閉症・社会 : 発達のパースペクティブから」話題提供者. 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, pp. 126-127.
- 発表-150 (2011. 4. パレ・デ・コングレ, カナダ・モンリオール) : Hughes, C. H., Ensor, R. A., Allen, L. L., Devine, R. T., De Rosnay, M., Koyasu, M., Mizokawa, M., & Lecce, S. (2011). Theory of mind performance in British, Australian, Japanese and Italian Children: Contrasts in culture or age of school entry? Paper presented at 2011 SRCD Biennial Meeting (Society for Research in Child Development), April 2, Palais des Congrès, Montreal, Quebec, Canada.
- 発表-151 (2011. 5. ハワイ大学マノア校, アメリカ合衆国) : Koyasu, M. (2011). Economics, psychology, and happiness. Paper presented at the 10th East-West Philosophers' Conference, May 21, University of Hawaii at Manoa, Hawaii, USA.
- 発表-152 (2011. 7. イスタンブール国際会議場, トルコ) : Koyasu, M., & Hashimoto, K. (2011). Influences of optimism-pessimism and positive orientations on the sense of happiness. Poster presented at the 12th European Congress of Psychology, July 5, Istanbul, Turkey.

- 発表-153 (2011. 9. 日本大学) : 倉屋香里 ・ 子安増生 (2011). 児童期における情動を表す  
比喩の印象伝達機能の理解の発達. 日本心理学会第 75 回大会論文集, p. 996.
- 発表-154 (2011. 9. 日本大学) : 小講演 : 溝川藍 (2011). 「子どもの感情表出の調整に関す  
る理解」司会者. 日本心理学会第 75 回大会論文集, L4.
- 発表-155 (2011. 9. 日本大学) : 野崎優樹 ・ 子安増生 (2011). 自己領域と他者領域の区分  
に基づいてレジリエンス及びストレス経験からの成長が情動知能に及ぼす影響.  
日本心理学会第 75 回大会論文集, p. 7.
- 発表-156 (2011. 9. 日本大学) : 古見文一 ・ 子安増生 (2011). 視点取得課題におけるロール  
プレイ体験がマインドリーディングの活性化に与える影響. 日本心理学会第 75 回  
大会論文集, p. 664.
- 発表-157 (2011. 9. 日本大学) : 溝川藍 ・ 子安増生 (2011). 幼児期における他者の心の理解  
と社会的相互作用の関連. 日本心理学会第 75 回大会論文集, p. 1074.
- 発表-158 (2012. 3. 名古屋国際会議場) : 子安増生 ・ 郷式徹 (2012). 児童における実行機能  
と心の理解に及ぼすメディアの影響. 日本発達心理学会第 23 回大会発表論文集,  
p.126.
- 発表-159 (2012. 3. 名古屋国際会議場) : 日本発達心理学会第 23 回大会 ・ 大会企画委員会  
シンポジウム : 「第二世代に向かう「心の理論」の発達研究」企画 ・ 司会者. 日本  
発達心理学会第 23 回大会発表論文集, p. 122.
- 発表-160 (2012. 3. 名古屋国際会議場) : 英国心理学会発達部門「国際協力賞」受賞者講演 :  
Dr Rachel Wu 「乳児期における注意手がかりによるメタ学習 (学習の学習)」. 企画  
者. 日本発達心理学会第 23 回大会論文集, pp.140-141.
- 発表-161 (2012. 5. シェラトン・シカゴ・ホテル & タワーズ, アメリカ合衆国) : Furumi,  
F., & Koyasu, M. (2012). The role-play experience activates mindreading in a  
communication task. Poster presented at the 24th APS Annual Convention, May  
26, Sheraton Chicago Hotel & Towers, Chicago, USA.
- 発表-162 (2012. 7. ショー国際会議場, カナダ) : Koyasu, M., & Goshiki, T. (2012). Executive  
function and “theory of mind” in seven and eight-year old elementary school children:  
From a Japanese longitudinal follow-up study. Poster presented at the International Society  
for the Study of Behavioural Development 2012 Biennial Meeting. July 9, Shaw Inter-  
national Centre, Edmonton, Alberta, Canada.
- 発表-163 (2012. 7. ケープタウン国際会議場, 南アフリカ) : Oyama, Y., & Koyasu, M. (2012).  
What makes people happy and what makes them unhappy? A cross-cultural qualitative  
study on the sense of happiness. Paper presented at the 30th Annual Congress of Psychol-  
ogy, July 27, Cape Town International Convention Centre, Cape Town, South Africa.
- 発表-164 (2012. 8. 札幌コンベンションセンター) : Mizokawa, A., & Koyasu, M. (2012).  
Children’s understanding of hidden emotion, theory of mind, and peer relationship. Poster



presented at the 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society, August 3, Sapporo Convention Center, Sapporo, Japan.

発表-165 (2012. 8. 札幌コンベンションセンター) : Manalo, E., Kusumi, T., Koyasu, M., Michita, Y., & Tanaka, Y. (2012). Student perspectives on critical and other thinking skills: Some cultural similarities and differences. Poster presented at the 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society, August 4, Sapporo Convention Center, Sapporo, Japan.

発表-166 (2012. 9. 専修大学) : 日本心理学会第 76 回大会ワークショップ: 「親なんかいら  
ないか? — 氏・育ち問題の現在」 指定討論者. 日本心理学会第 76 回大会発表論文  
集, WS (6).

発表-167 (2012. 9. 専修大学) : 野崎優樹・子安増生 (2012). 情動知能が社会的排斥経験後  
の報復の抑制に及ぼす影響. 日本心理学会第 76 回大会論文集, p. 38.

発表-168 (2012. 9. 専修大学) : 日本心理学会第 76 回大会・日本心理学会企画シンポジウ  
ム: 「ICP2016 を成功させるために」 話題提供者. 日本心理学会第 76 回大会発表論  
文集, JPAS (2).

発表-169 (2012. 11. 琉球大学) : 野崎優樹・子安増生 (2012). 大学入試に対する認知的評  
価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果. 日本教育心理学会第 54 回総  
会発表論文集, p. 603.

発表-170 (2013. 3. 明治学院大学) : 日本発達心理学会第 24 回大会・公開シンポジウム: 「心  
理職の国家資格の展望と課題—医療・保健、福祉、教育・発達、司法・矯正、産業等  
の汎用的資格、“scientist-practitioner” モデル、および心理職間の連携の意義—」 話  
題提供者. 日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集, (128)-(129).

発表-171 (2013. 3. 明治学院大学) : 日本発達心理学会第 24 回大会・自主シンポジウム: 「自  
己制御の発達行動遺伝学: 幼児から成人まで」 話題提供者. 日本発達心理学会第  
24 回大会発表論文集, pp. 8-9.

発表-172 (2013. 3. 明治学院大学) : 日本発達心理学会第 24 回大会・大会企画シンポジウ  
ム: 「こころとコミュニケーションの発達」 司会者. 日本発達心理学会第 24 回大会  
発表論文集, (118)-(119).

発表-173 (2013. 3. 明治学院大学) : 子安増生・郷式徹 (2013). 児童における文字・図形模  
写の発達に及ぼすメディアの影響. 日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集, p.  
367.

発表-174 (2013. 3. 明治学院大学) : 古見文一・子安増生 (2013). 異なる色覚を持つ他者の  
心の理解に及ぼすロールプレイ体験の効果— 児童期の発達 —. 日本発達心理学  
会第 24 回大会論文集, p. 469.

発表-175 (2013. 7. ストックホルム国際会議場, スウェーデン) : Koyasu, M. (2013). A cross-  
national study on happiness: Data from thirteen countries. Poster presented at the 13th  
European Congress of Psychology, July 8-12, Stockholmsmässan, Stockholm, Sweden.

- 発表-176 (2013. 7. ハワイ会議場, アメリカ合衆国) : Furumi, F., & Koyasu, M. (2013). Role-play experiences activate mindreading of people with restricted color vision, 121st Annual Convention of the American Psychological Association. July 31-August 4, Hawai'i Convention Center, Honolulu, USA.
- 発表-177 (2013. 8. 法政大学) : 後藤崇志・楠見孝・子安増生・川口秀樹 (2013). 中学生における自律的動機づけと学習方略の循環 : 2 時点のデータを用いた共分散構造分析による検討. 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, p. 255.
- 発表-178 (2013. 8. エトヴェシュ・ロラーンド大学・国際会議場, ハンガリー) : Furumi, F., & Koyasu, M. (2013). Effects of role-play experience on primary school children's indreading of people with restricted color vision. 18th Conference of the European Society for Cognitive Psychology, 29 August-1 September, ELTE University Congress Center, Budapest, Hungary.
- 発表-179 (2013. 8. エトヴェシュ・ロラーンド大学・国際会議場, ハンガリー) : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). Effects of emotional intelligence on inhibiting retaliation for ostracism. 18th Conference of the European Society for Cognitive Psychology, 29 August-1 September, ELTE University Congress Center, Budapest, Hungary.
- 発表-180 (2013. 9. ローザンヌ大学, スイス) : Koyasu, M., & Goshiki, T. (2013). Effects of media exposure on the development of copying complex Chinese letters and figures in elementary school children. 16th European Conference on Developmental Psychology. September 3-7, University of Lausanne, Lausanne, Switzerland.
- 発表-181 (2013. 9. マリオット・NY ダウンタウンホテル, アメリカ合衆国) : Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2013). Effects of trait emotional intelligence on regulation of ostracized others' retaliation. The 4th International Congress on Emotional Intelligence. September 8-10, Marriott New York Down Town Hotel, New York, USA.
- 発表-182 (2014. 3. 京都大学) : 日本発達心理学会第 25 回大会・日本学術会議・発達心理学分科会企画シンポジウム : 「早期教育の光と影—英語早期教育は是か非か—」 司会者. 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集, 138-139.
- 発表-183 (2014. 3. 京都大学) : 日本発達心理学会第 25 回大会一般社団法人日本発達心理学会・一般社団法人日本臨床発達心理士会・一般財団法人日本心理研修センター共催シンポジウム : 「心理職の国家資格化に向けての展望と課題 (II) — 「生物・心理・社会文化モデル」の理論と実践—」 指定討論者. 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集, pp. 142-143.
- 発表-184 (2014. 3. 京都大学) : 日本発達心理学会第 25 回大会招待講演 : アンドリュー・ブレムナー「発達早期における多感覚環境 : 乳幼児は身体と外界の多感覚表象をいかにして構築するか」 企画者. 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集, pp. 118-119.

- 発表-185 (2014. 3. 京都大学) : 日本発達心理学会第 25 回大会・大会基調講演 : 「認知発達研究の過去・現在・未来 : 「子どもは省略の天才である」」講演者. 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集, pp. 116-117.
- 発表-186 (2014. 7. パリ国際会議場, フランス) : Koyasu, M., & Hashimoto, K. (2014). The effects of optimism and positive orientation on subjective well-being. E-poster presented at the 28th International Congress of Applied Psychology, July 12, Palais des Congrès, Paris, France.
- 発表-187 (2014. 9. 同志社大学) : 橋本京子・子安増生 (2014). 楽観性とポジティブ志向および幸福感の関係について (3) —抑うつ調整効果—. 日本心理学会第 78 回大会論文集, p. 75.
- 発表-188 (2014. 9. 同志社大学) : 古見文一・子安増生 (2014). 異なる色覚の他者の心の理解に及ぼすロールプレイ体験の効果. 日本心理学会第 78 回大会論文集, p. 607.
- 発表-189 (2014. 9. 同志社大学) : 野崎優樹・子安増生 (2014). 日本語版 Profile of Emotional Competence 作成の試み (1) —因子構造の国際比較—. 日本心理学会第 78 回大会論文集, p. 896.
- 発表-190 (2014. 11. 神戸国際会議場) : 米田英嗣・小山内秀和・柳岡開地・猪原敬介・子安増生・楠見孝・小坂浩隆 (2014). 児童および成人による善悪判断における特性と意図の効果. 日本教育心理学会第 56 回総会, p. 661.
- 発表-191 (2014. 11. 神戸国際会議場) : 後藤崇志・川口秀樹・市村賢士郎・楠見孝・子安増生 (2014). 総合評価ツールを用いた中高生の学習の縦断的検討 (1) —自律的動機づけと動機づけ方略の相互関係—. 日本教育心理学会第 56 回総会, p. 700.
- 発表-192 (2014. 11. 神戸国際会議場) : 川口秀樹・後藤崇志・市村賢士郎・楠見孝・子安増生 (2014). 総合評価ツールを用いた中高生の学習の縦断的検討 (2) —テスト成績に及ぼす学習方略と学習志向性の影響—. 日本教育心理学会第 56 回総会, p. 701.
- 発表-193 (2014. 11. 神戸国際会議場) : 野崎優樹・子安増生 (2014). 日本語版 Profile of Emotional Competence 作成の試み (2) —基準関連妥当性と増分妥当性の検証—. 日本教育心理学会第 56 回総会, p. 891.
- 発表-194 (2015. 3. ブールス・ファン・ベルラーへ, オランダ) : Koyasu, M. (2015). Development of a demographic literacy test for university students. Poster presented at the International Convention of Psychological Science. 12-14 March, Beurs van Berlage, Amsterdam, the Netherlands
- 発表-195 (2015. 3. 東京大学) : 子安増生・郷式徹 (2015). 児童における文字・図形模写の発達に及ぼすメディアの影響 (2). 日本発達心理学会第 26 回大会論文集, P-060
- 発表-196 (2015. 3. 東京大学) : 米田英嗣・小山内秀和・柳岡開地・子安増生・楠見孝 (2015). 自閉症スペクトラム児による善悪判断における特性と意図の効果. 日本発達心理学会第 26 回大会論文集, P-056.

- 発表-197 (2015. 3. 東京大学): 日本発達心理学会国際研究交流委員会企画シンポジウム「生涯にわたる心の理論の発達 Lifespan development of theory of mind」指定討論者. 日本発達心理学会第 26 回大会論文集, BS3.
- 発表-198 (2015. 7. ミラノ・ビッコカ大学, イタリア): Koyasu, M., & Goshiki, T. (2015). A longitudinal study of copying complex Chinese letters and figures in elementary school children. The 14th European Congress of Psychology. 7-10 July, the University of Milano-Bicocca, Milan, Italy.
- 発表-199 (2015. 7. ロンドン・ウェスタン大学, カナダ): Nozaki, Y., & Koyasu, M. (2015). The location of emotional competence in the multiple intelligences theory seen from laypersons. The International Society for the Study of Individual Differences, July 27-31, Western University, London, Canada.
- 発表-200 (2015. 8. 朱鷺メッセ): 野崎優樹・子安増生 (2015). 非専門家から見た多重知能理論内での情動コンピテンスの位置 (1) —社会での重要性の観点から—. 日本教育心理学会第 57 回総会, p. 167.
- 発表-201 (2015. 9. ミーニョ大学, ポルトガル): Koyasu, M., & Goshiki, T. (2015). Effects of media exposure on the development of copying complex Chinese letters and figures in elementary school children II. Poster presented at the 17th European Association of Developmental Psychology Biennial Conference. September 8-12, University of Minho, Braga, Portugal.
- 発表-202 (2015. 9. マンチェスター・パレス・ホテル, 英国): Furumi, B., & Koyasu, M. (2015). Japanese preschoolers' understanding of false belief: From ordinary character to extraordinary character. Poster presented at the BPS Developmental Section & Social Section Annual Conference 2015. 9-11 September, The Palace Hotel, Manchester, England.
- 発表-203 (2015. 9. マンチェスター・パレス・ホテル, 英国): Komeda, H., Osanai, H., anaoka, K., Koyasu, M. & Kusumi, T. (2015). Moral judgments by children with autism spectrum disorders in late childhood. Poster presented at the BPS Developmental Section & Social Section Annual Conference 2015. 9-11 September, The Palace Hotel, Manchester, England.
- 発表-204 (2015. 9. 名古屋国際会議場): 古見文一・子安増生 (2015). ロールプレイがマインドリーディングに及ぼす効果の転移. 日本心理学会第 79 回大会論文集, L(2).
- 発表-205 (2015. 9. 名古屋国際会議場): 溝川藍・子安増生 (2015). 青年・成人期における他者理解と共感性: 道徳判断との関連. 日本心理学会第 79 回大会論文集, p. 961.
- 発表-206 (2015. 9. 名古屋国際会議場): 小講演: 古見文一「ロールプレイがマインドリーディングに及ぼす効果の発達心理学的検討」. 司会者. 日本心理学会第 79 回大会論文集, p. 595.
- 発表-207 (2015. 9. 名古屋国際会議場): 野崎優樹・子安増生 (2015). 非専門家から見た多

重知能理論内での情動コンピテンスの位置 (2) —能力の自己評定の観点から—. 日本心理学会第 79 回大会論文集, p. 25.

## 7. 講演

- 講演一1 (2001. 4. 22. 東京都・早稲田大学国際会議場): 子安増生 (2001). 日本赤ちゃん学会特別講演: <心の理論>の発達—幼児期の心の理解の豊かさをさぐる.
- 講演一2 (2002. 3. 15. 犬山市・京都大学霊長類研究所): 子安増生 (2001). 第 32 回ホミニゼーション研究会『知性の進化』講演: 「心の理論」と知性の進化・発達.
- 講演一3 (2002. 6. 23. 大阪市・サントリー不易流行研究所): 子安増生 (2002). 講演: 「心の理論」の発達—多重知能理論からみた教育・文化・社会.
- 講演一4 (2003. 3. 5. 京都市・川西幼稚園): 子安増生 (2002). 保護者対象講演: 子どもが「心」に出会うとき.
- 講演一5 (2003. 6. 27. 京都市・堀川高校): 子安増生 (2003). 高校生対象講演: 京都大学教育学部で心理学を学ぶ.
- 講演一6 (2003. 8. 10. 大阪市・大阪府立女性総合センター): 子安増生 (2003). ママ・パパ応援シンポジウム すくすく子育てトークライブ 子どもは「心の理解」をどう発達させていくのか.
- 講演一7 (2003. 8. 26. 和光市・本田技術研究所): 子安増生 (2003). ホンダヒューマンフォーラム—一人に学ぶ— 講演: ロボットと心の理論—逆チューリングテストは可能か?
- 講演一8 (2003. 9. 17. 京都市・川西幼稚園): 子安増生 (2003). 教職員研修講義: からだ、ことば、こころ.
- 講演一9 (2003. 10. 25. 京都市・堀川高校): 子安増生 (2003). 生徒対象講演: 心を理解する心の科学—心の教育に向けて.
- 講演一10 (2003. 11. 30. 東大阪市・大阪樟蔭女子大学): 子安増生 (2003). 日本乳幼児教育学会企画シンポジウム「子どもの共感はいかに育つか」: 心の理論と共感の発達.
- 講演一11 (2004. 4. 22. 京都市・京都カトリック信愛幼稚園): 子安増生 (2004). 保護者対象講演: 子どもの心が見えますか?
- 講演一12 (2004. 4. 25. 京都大学) Koyasu, M. (2004). Young children's development of understanding other's mind. Presented at Kyoto-Michigan Collaboration in Psychology: The 2nd Symposium "Self and Society." April 25, Kyoto University, Japan.
- 講演一13 (2004. 6. 26. 京都市・堀川高校): 子安増生 (2004). 生徒対象講演: 心を理解する心の科学—心の教育に向けて.
- 講演一14 (2006. 10. 6. 名古屋市・愛知教育大学附属名古屋中学校): 子安増生 (2006). 第 49 回教育研究発表会・講演会: 子どもの豊かな知性を拓く授業—多重知能理論か

ら考える一。

- 講演－15 (2006. 10. 10. 名古屋市・ドルトンスクール名古屋) : 子安増生 (2006). 講演 : 幼児の「心の理論」の発達—心が見えますか？
- 講演－16 (2006. 10. 26. ランカスター大学, 英国) : Koyasu, M. (2004). Young children's development of understanding others' mind: From perspective-taking to theory of mind. Paper presented at the Lancaster-Kyoto Joint International Symposia. 26 October, Lancaster University, England.
- 講演－17 (2006. 11. 14. 大阪市幼児教育センター) : 子安増生 (2006). 講演 : 幼児期の「心の理解」の発達.
- 講演－18 (2007. 3. 1. & 6. サラゴサ大学, スペイン) : Koyasu, M. (2007). Young children's development of understanding other's mind. Invited lecture series at the University of Zaragoza, March 1 and 6, Zaragoza, Spain.
- 講演－19 (2007. 5. 14. 京都大学百周年時計台記念館大ホール) : 子安増生 (2007). 京都大学春秋講義 メインテーマ「こども」: 子どもが心を理解するとき.
- 講演－20 (2007. 5. 19. 吹田市・大阪学院大学) : 子安増生 (2007). 日本感情心理学会第15回大会・オムニバス講演「進化と発達から感情を考える」: 子どもの他者理解の発達—感情の理解と表出.
- 講演－21 (2007. 8. 9. 名古屋市・産業技術記念館) : 子安増生 (2007). コンポン研究所講演 : 心の理論の発達.
- 講演－22 (2007. 9. 2. 瀬戸市・健康保険センターやすらぎ会館) : 子安増生 (2007). 瀬戸市保育園職員自主研修会講演 : 「心の理論」の発達からみた異年齢保育.
- 講演－23 (2007. 10. 16. 大阪市・大阪市立こども文化センター) : 子安増生 (2007). 講演 : 子どもが心を理解するとき.
- 講演－24 (2007. 10. 20. 京都大学総合博物館) : 子安増生 (2007). 講演 : 三つ子の魂、どんな魂?—幼児期の心の発達をさぐる.
- 講演－25 (2007. 11. 21. 大阪市・大阪市幼児教育センター) : 子安増生 (2007). 講演 : 幼児の心が活きる教育.
- 講演－26 (2007. 12. 6. 京都大学) : Koyasu, M. (2007). Toward a unified theory of young children's development of understanding others' mind. Presented at the International Symposium on Executive Function in the Mind. December 6, Kyoto University, Japan.
- 講演－27 (2008. 4. 23. 京都市・京都カトリック信愛幼稚園) : 子安増生 (2007). 保護者対象講演 : 子どもの心が見えますか？
- 講演－28 (2008. 5. 31. 東京都・津田塾大学言語文化研究所) : 子安増生 (2008). 講演 : メタファー理解と「心の理論」の発達.
- 講演－29 (2008. 9. 10. 東京都・フロラシオン青山) : 子安増生 (2008). 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 子ども徳育に関する懇談会 (第2回) : 子どもは「心の

理解」をどう発達させていくのか。

講演－30 (2008. 10. 23. 神戸市・甲南女子大学) : 子安増生 (2008). 甲南女子大学「子ども学」講演会：三つ子の魂、どんな魂？—幼児期の心の発達をさぐる

講演－31 (2009. 2. 10. 大阪市・大阪家庭裁判所) : 子安増生 (2009). 講演：心を読めない子どもたち—心の理解の発達と障害—

講演－32 (2009. 10. 21. 京都市・京都ガーデンパレス) : 子安増生 (2009). 第2回学力調査活用アクションプラン推進協議会講演：認知心理学から学習意欲を考える.

講演－33 (2009. 10. 29. 京都市・ウェスティン都ホテル京都) : 子安増生 (2009). 第73回全国学校歯科保健研究大会講演：「はぐくむ」を考える—心理学からのアプローチ.

講演－34 (2009. 11. 22. 神戸市・神戸国際会議場) : 子安増生 (2009). 国際シンポジウム データアーカイブと学術研究・政策推進・事業利用のための国際協力—わが国初の教育データアーカイブの船出によせて—「ディスカッションI データアーカイブと学術研究」：長期縦断研究のデータアーカイブ公開の意義.

講演－35 (2009. 11. 29. 都城市・都城西中学校) : 子安増生 (2009). 保護者対象講演：子どもの心の発達の理解—自立する子を育てるために.

講演－36 (2010. 1. 20. サラゴサ大学, スペイン) : Koyasu, M. (2010). A unified theory of understanding the mind in young children. Invited talk at the University of Zaragoza. January 20, Zaragoza, Spain.

講演－37 (2010. 1. 21. サラゴサ大学, スペイン) : Koyasu, M. (2010). Influences of optimism-pessimism and positive orientations on the sense of happiness. Invited talk at the University of Zaragoza. January 21, Zaragoza, Spain.

講演－38 (2010. 3. 2. 京都市・京都テルサ) : 子安増生 (2010). 学力調査活用アクションプラン推進事業講演：学力の基盤としての生活習慣・学習環境に関わる課題と取組の方向.

講演－39 (2010. 10. 14. 大津市・大津家庭裁判所) : 子安増生 (2010). 大津家庭裁判所講演：心を読めない子どもたち—心の理解の発達と障害.

講演－40 (2010. 11. 28. 大阪市・梅田 ACT III) : 子安増生 (2010). 日本心理学諸学会連合主催公開シンポジウム 『心理学と現代社会』講演：心理学と心理学界.

講演－41 (2011. 7. 16. 京都市・京都光華女子大学) : 子安増生 (2011). 保育子育てアドバイザー資格講習会：「子育て発達心理学」三つ子の魂、どんな魂？—幼児期の心の発達をさぐる.

講演－42 (2011. 7. 22. 大津市・大津家庭裁判所) : 子安増生 (2011). 大津家庭裁判所講演：三つ子の魂、どんな魂？—幼児期の心の発達をさぐる.

講演－43 (2011. 10. 8. 東京都・明治学院大学白金校舎) : 子安増生 (2011). 明治学院大学心理学部 教育 GP 記念シンポジウム：発達心理学から見た心理支援論.

講演－44 (2011. 11. 25. ランカスター大学, 英国) : Koyasu, M. & Goushiki, T. (2011). Effects of

media exposure on executive function and “theory of mind” in seven- and eight-year old elementary school children: From a Japanese longitudinal follow-up study. Paper presented at the third Lancaster-Kyoto Joint International Symposium, 25 November, Lancaster University, England.

講演－45 (2012. 3. 23. ハワイ大学マノア校, アメリカ) : Koyasu, M. (2012). Young children’s development of understanding self, other, and language. Invited talk at University of Hawaii at Mānoa. March 23, Honolulu, USA.

講演－46 (2012. 5. 26. 京都市・アピカルイン京都) : 子安増生 (2011). 京都家庭裁判所調査官協議会研究集会講演：子どもの発達を理解するために—「心の理論」の周辺.

講演－47 (2012. 6. 16. 東京都・昭和女子大学) : 子安増生 (2012). 学生対象講演：心の理論の発達.

講演－48 (2012. 7. 23. 京都大学教育学研究科) : 子安増生 (2012). 高槻高等学校生徒対象講演：心を理解する心の科学—心の教育に向けて.

講演－49 (2012. 8. 3. 京都大学教育学研究科) : 子安増生 (2012). 和歌山県新宮高校生徒対象講演：心を理解する心の科学—高校生のための心理学入門.

講演－50 (2012. 8. 7. 大津市・全国市町村国際文化研修所) : 子安増生 (2012). 平成 24 年度政策実務系研修「子育て支援と保育行政」講演：気になる子どもへの接し方.

講演－51 (2012. 8. 20. 京都大学教育学研究科) : 子安増生 (2012). 和歌山県橋本高校生徒対象講演：心を理解する心の科学—高校生のための心理学入門.

講演－52 (2012. 9. 8. 京都市・京都光華女子大学) : 子安増生 (2012). 保育子育てアドバイザー資格講習会：子育て発達心理学.

講演－53 (2012. 10. 3. ザルツブルグ大学, オーストリア) : Koyasu, M. (2012). A unified theory of understanding another’s mind in young children. Invited talk at the University of Salzburg. October 3, Salzburg, Austria.

講演－54 (2012. 10. 19. 新潟市・ANA クラウンプラザ新潟芙蓉の間) : 子安増生 (2012). 第 57 回全国肢体不自由児療育研究大会公開講座講演：心の理論と実行機能一定型発達と自閉症スペクトラム.

講演－55 (2012. 11. 22. 高槻市・高槻中学校) : 子安増生 (2012). 生徒対象講演：これから伸ばす力は何か—多重知能理論から考える.

講演－56 (2012. 12. 13. ドレスデン工科大学, ドイツ) : Koyasu, M. (2012). A cross-national study on happiness: Data for thirteen countries. Invited talk at the Technical University of Dresden. December 13, Dresden, Germany.

講演－57 (2013. 1. 21. 京都市・京都リサーチパーク KISTEC) : 子安増生 (2013). 第 1 回産学デザインシンポジウム講演：認知と行動のデザイン—心理学からのアプローチ.

講演－58 (2013. 1. 31. 京都市・総合教育センター) : 子安増生 (2013). 京都市総合支援学校



教育研究会講演：心とコミュニケーションの発達。

- 講演－59 (2013. 2. 27. 東京都・京都大学品川オフィス)：子安増生 (2013). 東京で学ぶ 京大の知 シリーズ 10「教育を考える」講演：三つ子の魂、どんな魂？—幼児期の心の発達を探る.
- 講演－60 (2013. 6. 18. 広島市・まちづくり市民交流プラザ)：子安増生 (2013). 平成 25 年度園長等運営管理協議会講演：幼児期の規範意識の芽生え.
- 講演－61 (2013. 9. 14. 京都市・京都光華女子大学)：子安増生 (2013). 保育子育てアドバイザー資格講習会：子育て発達心理学.
- 講演－62 (2014. 11. 29. 京都大学医学部臨床第一講堂)：子安増生 (2015). 「心の理論」の定型発達と非定型発達. 第 6 回 DDSK (Developmental Disabilities Supports in Kyoto) ～発達障がいを考える～.
- 講演－63 (2015. 7. 25. 京都市・同志社大学今出川キャンパス至誠館 3F 会議室)：子安増生 (2015). 講演：心の理論、共感性、満足の遅延—知情意の発達の実験心理学. 日本発達心理学会関西地区懇話会例会.
- 講演－64 (2015. 8. 23. 京都大学吉田キャンパス人間・環境学研究科 B23)：子安増生 (2015). 講演：知力を測る—多重知能理論への道. 全国スクールリーダー育成研修 E. Forum2015.
- 講演－65 (2015. 11. 8. 摂津市・大阪人間科学大学庄屋学舎)：子安増生 (2015). 「心の理論」の発達とその意義. 一般財団法人日本心理研修センター平成 27 年度秋季研修会「自閉症スペクトラム障害への発達論的アプローチの新動向 (6) 心の理論の発達とその障害・支援」.
- 講演－66 (2016. 3. 20. 東京都・日本学術会議講堂)：子安増生 (2016). 日本心理学諸学会連合の活動と公認心理師の未来. 日本学術会議心理学・教育学委員会「社会のための心理学分科会」主催公開シンポジウム「人間理解を支える心理学としての社会貢献：公認心理師資格を考える」.
- 講演－67 (2016. 3. 25. 京都大学百周年時計台記念館大ホール)：子安増生 (2016). [最終講義] 心のデザイン：発達心理学的アプローチ. 京都大学デザイン学大学院シンポジウム.

## 8. 交付研究費

- 交付研究費－1 (昭和 56 年度)：子安増生 (研究代表者) 科学研究費・奨励研究 (A)：「幼児の脱中心化に及ぼす VTR による自己フィードバックと観察学習の効果」
- 交付研究費－2 (昭和 58 年度)：子安増生 (研究代表者) 科学研究費・奨励研究 (A)：「知能検査のコンピュータ化に関する基礎開発的研究」
- 交付研究費－3 (昭和 59 年度)：子安増生 (研究代表者) 科学研究費・奨励研究 (A)：「幼

児の速度認知に関する野外実験的研究」

交付研究費－4 (昭和 60 年度)：子安増生（研究代表者）科学研究費・奨励研究（A）：「子どものコンピュータ・リテラシーの発達過程に関する研究」

交付研究費－5 (昭和 61 年度)：子安増生（研究代表者）科学研究費・奨励研究（A）：「ビデオ・フィードバック技法による幼児の左右認識の脱中心化過程の研究」

交付研究費－6 (昭和 62 年度)：今栄国晴（研究代表者）科学研究費・一般研究（B）：「コンピュータ・リテラシーの構造の分析とカリキュラム開発」

交付研究費－7 (昭和 63 年度)：坂野登（研究代表者）科学研究費・総合研究（A）：「知能・人格診断のための神経心理学テスト・バッテリーの開発」

交付研究費－8 (平成元年度)：河合隼雄（研究代表者）特定研究：「時－空間の体験とその認識に関する心理学的研究」

交付研究費－9 (平成元年度)：子安増生（研究代表者）吉田秀雄記念事業財団助成研究：「テレビのコマーシャル・フィルムにおけるメタファー表現の認知心理学的研究」

交付研究費－10 (平成 2 年度)：子安増生（研究代表者）科学研究費・一般研究（C）：「空間関係の認知に及ぼす映像情報の提示様式の効果に関する研究」

交付研究費－11 (平成 2 年度)：子安増生（研究代表者）佐藤玩具文化財団奨励金：「16 ビット CPU 搭載テレビゲームが小学生の認知発達に及ぼす影響のアセスメント調査」

交付研究費－12 (平成 2～4 年度)：柴野昌山（研究代表者）科学研究費・一般研究（B）：「国際化社会の中でのナショナル・アイデンティティの形成過程の研究」

交付研究費－13 (平成 3 年度)：子安増生（研究代表者）科学研究費・一般研究（C）：「子どもの描画における表現及び解析技法のコンピュータ化に関する基礎開発的研究」

交付研究費－14 (平成 4 年度)：岡田渥美（研究代表者）教育研究学内特別経費：「大学教育における教養教育（高度一般教育）の位置」

交付研究費－15 (平成 4 年度)：皇紀夫（研究代表者）教育研究学内特別経費：「大学教授法の開発研究」

交付研究費－16 (平成 5, 7～8 年度)：小嶋祥三（研究代表者）科学研究費・重点領域研究：「認知・言語の成立」〈環境との相互作用の発達〉班〔班長・久保田競〕  
〔平成 6 年度は在外研究のため不参加〕

交付研究費－17 (平成 7 年度)：子安増生（研究代表者）教育研究学内特別経費：「ティーチング・アシスタント（TA）制度の現状と将来像に関する実証的研究」

交付研究費－18 (平成 7 年度)：坂野登（研究代表者）特定研究：「個性認識における多重感覚様相的機構に関する心理学的研究」

交付研究費－19 (平成 9～11 年度)：子安増生（研究代表者）科学研究費・重点領域研究（研究代表者・桐谷滋）「心の発達」：公募研究「幼児期の〈他者の心〉のインタラ

クティヴな理解の発達」

交付研究費－20（平成 9～12 年度）：桐谷滋（研究代表者）特定領域研究（A）：「心の発達・認知的成長の機構」

交付研究費－21（平成 11～13 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・基盤研究（B）：「創発的思考における再帰とアナロジーの機構の認知心理学的研究」

交付研究費－22（平成 13 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・萌芽的研究：「かしこい市民を育むための経済学教育に関する心理学的研究」

交付研究費－23（平成 13～14 年度）：坂元昂（研究代表者）特定領域研究：「高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究」

交付研究費－24（平成 14～17 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・基盤研究（B）：「かしこい市民を育む経済学教育の展開とその教育心理学的評価」

交付研究費－25（平成 14～18 年度）：西田豊明（研究代表者）学術創成研究：「人間同士の自然なコミュニケーションを支援する知能メディア技術」

交付研究費－26（平成 14～18 年度）：藤田和生（研究代表者）「21 世紀 COE プログラム」研究拠点形成費補助金：「心の働きの総合的研究教育拠点」

交付研究費－27（平成 15～17 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・萌芽研究：「痛みの認知・表現・推測に関する認知科学的アプローチ」

交付研究費－28（平成 18～21 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・基盤研究（B）：「心の理論」の獲得と実行機能の発達」

交付研究費－29（平成 18～21 年度）：楠見孝（研究代表者）科学研究費・基盤研究（B）：「批判的思考の認知的基礎と教育実践」

交付研究費－30（平成 19～23 年度）：子安増生（研究代表者）「グローバル COE プログラム」研究拠点形成費補助金：「心が活きる教育のための国際的拠点」

交付研究費－31（平成 21～23 年度）：子安増生（研究代表者）科学研究費・挑戦的萌芽研究：「心の理論」の獲得とプラグマティックな言語理解の発達」

交付研究費－32（平成 23～27 年度）：楠見孝（研究代表者）科学研究費・基盤研究（A）：「21 世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」

交付研究費－33（平成 25～27 年度）：エマニュエル・マナロ（研究代表者）科学研究費・挑戦的萌芽研究：「批判的評価能力と高次の心の理論および認知コストとの関連」

交付研究費－34（平成 27～30 年度）：エマニュエル・マナロ（研究代表者）科学研究費・基盤研究（A）：「Understanding, measuring, and promoting crucial 21st century skills: Global communication, deep learning, and critical thinking competencies」

〔以 上〕